

## メディアコミュニケーション学科

教 授 安達 一寿

◆専門分野:教育工学、教育情報学、教育方法学、理科教育  
◆主な担当科目:教育とメディア、情報教科教育法、Webデザイン  
◆略歴:1990年東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科修了。1990年十文字学園女子短期大学、1996年十文字学園女子大学社会情報学部准教授を経て、現職。1997年国立女性教育会館客員研究員。2006年所沢市教育センター研究指導協力者。博士(教育学)。

教 授 Anthony Ruffa (アンソニー・ルファ)

◆専門分野:Language teaching and explaining, American and Spanish speaking culture  
◆主な担当科目:Teaching English through grammar, Activities, and oral production. Introducing the four skills necessary to learn Spanish. Emphasizing Spanish culture.  
◆略歴:1968年University of Richmond,VA,BA,1974年University of Richmond,VA,MA,1991年Jumonji junior college, associate professor,1997年Jumonji: Women's University, professor.

教 授 大西 正行

◆専門分野:ジャーナリズムとしての新聞  
◆主な担当科目:文章表現、メディア産業論、地域とメディア論、雑誌・ニコミ編集  
◆略歴:1972年早稲田大学第一政治経済学部卒。北國新聞社取締役編集局長。2008年十文字学園女子大学社会情報学部。日本マス・コミュニケーション学会会員、日本広告学会会員。

教 授 岡本 卓

◆専門分野:放送制度、ジャーナリズムとしての放送 有政法制と戦争報道  
◆主な担当科目:放送概論、情報倫理、アジア入門  
◆略歴:1971年東京外国語大学ベトナム語科卒。1971年NHKに記者として入局。以後、政治部、国際部、海外支局などでニュース取材に従事。「ニュース7」編責、報道局記者主幹などを経て2007年十文字学園女子大学社会情報学部教授。

教 授 島村 豊博

◆専門分野:小説を中心とした19、20世紀のイギリス文学  
◆主な担当科目:外国語I、文化と文学B(英米文学の流れ)、英語教科教育法III-IV  
◆略歴:1975年早稲田大学大学院文学研究科英文学専攻修了。1991年十文字学園女子短期大学文学科英語英文専攻助教授、2004年十文字学園女子大学社会情報学部コミュニケーション学科教授。

教 授 田総 恵子

◆専門分野:政治学、国際関係論、政治コミュニケーション  
◆主な担当科目:国際関係論、政治とメディア、異文化コミュニケーション  
◆略歴:1985年東京外国語大学大学院修士課程修了(国際関係論修士)、1992年ロシア大学大学院博士課程修了(政治学博士)。1993年オーストラリア国立大学講師、2004年十文字学園女子大学教授。

教 授 角田 真二

◆専門分野:ユニバーサルデザイン  
◆主な担当科目:ユニバーサルデザイン、情報機器論  
◆略歴:1986年東京工業大学大学院修士課程修了。1986年NTT基礎研究所研究員、1989年NTT基礎研究所研究主任、1992年十文字学園女子短期大学教養学科専任講師、1997年十文字学園女子大学助教授。

教 授 森田 勝之

◆専門分野:神経言語学、認知脳研究  
◆主な担当科目:外国語I、脳とコミュニケーション  
◆略歴:1980年上智大学卒。恵泉女学園大学英米文化学科非常勤講師、1991年十文字学園女子短期大学文学科英語英文専攻助教授、同教授を経て十文字学園女子大学社会情報学部コミュニケーション学科教授。

准 教 授 小笠原 典子

◆専門分野:日本語学  
◆主な担当科目:外国語I-II-III-IV  
◆略歴:慶應義塾大学文学部卒。1982年慶應義塾大学法学部卒。2000年十文字学園女子大学留学生別科、2003年十文字学園女子大学社会情報学部。

准 教 授 川口 英俊

◆専門分野:政治学、日本政治論、比較政治学  
◆主な担当科目:生活と政治行政、ニュースと社会  
◆略歴:1996年慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程単位取得退学。1996年十文字学園女子大学社会情報学部専任講師。

准 教 授 向後 朋美

◆専門分野:英語学(おもに統語論・意味論)  
◆主な担当科目:ことばのしくみ、英語学、英語教科教育法I-II  
◆略歴:1991年お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程修了(文学修士)、1994年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程比較文化学専攻単位取得満期退学。1997年十文字学園女子大学社会情報学部専任講師、2004年より現職。

准 教 授 北原 俊一

◆専門分野:物理学、コンピュータシミュレーション  
◆主な担当科目:物質のなりたち、地球と環境、コンピュータアニメーション  
◆略歴:1992年金沢大学大学院理学研究科物理学専攻修了(理学修士)、1995年金沢大学大学院自然科学研究科物質科学専攻修了。博士(理学)。1996年十文字学園女子大学社会情報学部講師、2004年十文字学園女子大学社会情報学部助教授。

准 教 授 鈴木 弘貴

◆専門分野:ヨーロッパの国境を越えるマスコミュニケーションと社会変動、CNNインターナショナル、BBCワールドなどのグローバルジャーナリズムの可能性、東アジア(日、中、台、韓、朝)の国境を越えるマスコミュニケーションと社会変動  
◆主な担当科目:国際マスコミュニケーション論、グローバル化と社会、メディア社会論  
◆略歴:1985年一橋大学社会学部卒業、1995年米国コロムビア大学国際関係大学院修士課程修了、1999年東京大学人文社会学系研究科社会学文化研究専攻後期博士課程単位取得満期修了。1985年時事通信社入社、1994年ニューヨーク国連本部広報局(インターン)。2001年十文字学園女子大学社会情報学部。

准 教 授 松永 修一

◆専門分野:日本語学、方言学、社会言語学  
◆主な担当科目:ことばと文化、ことばと社会、プレゼンテーション技法  
◆略歴:1998年早稲田大学大学院博士課程満期修了。宮崎国際大学専任講師、淑徳大学国際コミュニケーション学部助教授、2007年十文字学園女子大学社会情報学部。

専任講師 飯田 路佳

◆専門分野:生涯スポーツにおけるダンスムーブメント、ダンスムーブメント指導方法  
◆主な担当科目:運動と健康、身体運動、ダンスパフォーマンス  
◆略歴:1989年筑波大学体育専門学群卒、1993年筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。慶應義塾大学、十文字学園女子短期大学、千葉商科大学、青山学院女子短期大学、明治大学などの非常勤講師を経て、2007年十文字学園女子大学社会情報学部講師。

専任講師 設楽 優子

◆専門分野:英語音声学  
◆主な担当科目:外国語I-II、英語音声学、ナレーションB(英語)  
◆略歴:1988年東京外国語大学外国語学部英米語学科卒、1992年University of London (University College London)音声学修士課程修了、1992年東京外国語大学大学院外国語学研究科(ゲルマン系言語専攻)修了。1996年十文字学園女子大学社会情報学部専任講師、2003年東京外国語大学外国語学部非常勤講師、2005年成蹊大学文学部非常勤講師、2008年明治大学文学部兼任(非常勤)講師。

専任講師 田中 東子(就任予定)

◆専門分野:政治学、メディア研究  
◆主な担当科目:サブカルチャー論、エンターテインメントメディア論、メディア文化論  
◆略歴:2004年早稲田大学大学院政治学研究科修了 博士(政治学)、2001年早稲田大学教育学部社会科学科メディア系助手、千葉大学、東京外国語大学、国際基督教大学非常勤講師を経て、2011年十文字学園女子大学人間生活学部講師。

## 人間生活学部の共通科目 [2011年度]

● 必修科目…必ず修得しなければならない科目です。  
■ 選択必修科目および選択科目…選択必修科目は所定の単位数以上の科目を履修し、修得しなければならない科目です。選択科目は自由に選択し、履修することができる科目です。

	科 目	内 容
初年次 ゼミナール	● 入門セミナー ● 読書入門 ■ 女性を学ぶ	オリエンテーションやガイダンスからはじめ、学生の志望動機の確認や大学における学業生活を豊かに過ごせるように、スタディスキルを身につけていきます。 学生と講師する1冊の本を明示し、書物のもつ魅力を伝え、読書の方法を教えます。読書の喜びを身につけます。 創設者十文字ことの生き方を学ぶことから、本科目領域の意義と建学理念の関係を理解し、社会的・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が男女ともに求められていることを学びます。
女性を学ぶ	■ 女性とメディア ■ 女性としごと	世の中のさまざまなメディア情報を、ジェンダーの視点で分析し、探っていきます。ジェンダー視点によるメディア・リテラシー教育の一環です。 女性にとって「しごと」とのかかわりについて、ライフプランのなかで職業意識形成を考え、女性のキャリア計画、事務職だけでなく多様な職場への進出、さらに女性を受け入れる企業の変化など多様な視野において、「しごと」をとらえます。
	■ 女性のからだと心 ■ 文学と女性	将来を担う子どもたちの誕生や成長に関わる学生たちが、「女性のからだところろ」について主体的なあり方を考え、世界の動きを学びます。 文学や芸術作品を通して、どのように女性が描かれてきたかを探ります。それぞれの時代に女性に期待された役割および、表現者としての女性の可能性を理解し、現代の文学・芸術への理解を深めます。
	■ 女性の社会参画の国際比較	世界各国の女性の状況を、政治参加、経済活動、貧困、教育、暴力、文化・慣習、家庭役割などの領域で、先進国・開発途上国に関わらず共通する課題を多く比較し考察します。
	■ 新産から学ぶ	学生自らが興味や関心をもち、自ら知りたいと思う課題を、自ら探求していく力をはぐくみます。大学の所在地の新産市の歴史や地域、環境問題、農業や産業に関する講義を行い、地域社会とは何かを学びます。
地域社会を学ぶ	■ 日本国憲法の内容と精神	国際女性年および国連女性の10年が掲げた「平和・平等・発展」という理念から、ジェンダーに敏感な視点と定着の進化をめざし、人権問題や憲法政治状況を具体的に取りあげ、憲法への理解を深めていきます。
	■ 現代社会を考える	現代の日本社会は少子高齢化をはじめとしてさまざまな家族の問題や社会の問題を抱えています。現代社会の膨大で多様な情報を分析、解明していくための能力を身につけられるように学んでいきます。
	■ グローバリゼーションと社会	経済のグローバル化、情報のグローバル化のふたつの現象を中心に、それぞれの進展を歴史的に把握するとともに、現代社会において両者が複合的に絡み合っており、社会・文化および人々の認識・行動に影響を与えていることを学んでいきます。
人間環境を学ぶ	■ 社会の仕組みの理解 ■ 芸術と人間理解 ■ 若者と精神保健 ■ 物質のなりたち	社会のしくみや国の制度を理解するうえで、欠かせない法学や政治学について扱い、入門的位置づけとします。基礎的な知識の理解と社会の諸問題に対する意見を身につけます。 周りとのコミュニケーション手段としての芸術が果たす役割に気づき、特に造形行動を中心として実践しながら学んでいきます。 同世代よみみられる心理的特徴、および、精神的な問題について理解を深めることを目標とし、学生のアイデンティティ形成、さらには他者への支援にも役立つ講義とを期待します。 人間は、自然環境のなかで日々生活をしており、自然の影響を受けています。宇宙・地球・動植物・細胞・遺伝子といった自然の階層と物質の成り立ちを知り、それらがどのような相互作用をするのかを考えながら学んでいきます。
	■ 地球と環境	人間活動が地球環境にどのような影響を与えてきたのか、また、今後どのような影響が出てくる可能性があるのかを学びます。そのうえで、人間はどのような行動をとる必要があるのかを考えていきます。
	■ 生命と生態系	環境影響をおよぼしている我々人間は、個々の生命活動のしくみと、生態系の関係をよく知る必要があります。細胞の構造と機能、エネルギー代謝系、遺伝子-DNAのはたらきと機能、進化などについて学び、さらに生命と環境との関係について理解を深めます。
総合	■ 総合科目 ■ 総合ゼミ	外部の優れた企業(団体)の活動や理念を、直接、企業の講師陣から学ぶことで、「社会の変化に柔軟に対応できる女性を育てる」という本学の教学方針を実現していきます。十文字学の背骨をなす「実学の喜び・女性の感性・地域へのあたたかみなど」を具現するため、新産周辺地域を起点とした女性雑誌制作(フリーペーパー等)を通して、地域の人々と交感をわかち学生同士の協働を重ねて、地域起こしにも貢献します。
保健体育	● 運動と健康 ● 人間と運動 ● 身体運動	からだの構造や機能、健康を取り巻く社会・心理的要因について取り扱います。そして自らを振り返り、感じ、考える機会を整え、健康づくりをより柔軟に考える素地をつくります。 1年次前期にレクリエーション種目を中心とした身体運動から、「身体を動かすこと」の楽しさを体感し、さらに自らと他者の身体についての気づきを深めます。
	■ シーズンスポーツ	冬季集中科目として、学外で3泊4日の雪上実習(スキー・スノーボード)を行います。自然界の厳しさを理解し、その素晴らしさを味わいつつ、生涯を通じて大自然に親しむ機会をつくります。
	● 外国語I(英語) ● 外国語I(中国語)	英文を読みとる力、短文が書ける力の養成、中級レベルのクラスではこれらに加えて短文を聞きとる力の養成も目標に加え、授業を行います。 中国語の学習歴のない学生を対象に、中国語の基本的な語彙、発音、簡単な文の構造についての入門的な授業を行います。簡単な自己紹介、短期留学や中国旅行などのときに使う最も基本的な会話ができることを目標とします。中国語の歴史的、文化的な知識などにもふれます。
	● 外国語I(フランス語)	フランス語の学習歴のない学生を対象に、フランス語の基本的な語彙、発音、簡単な文の構造についての入門的な授業を行います。まずは、フランス語で日常よく使われる挨拶や基本的な単語100語程度を実際に何度も発音しながら、フランス語に慣れることを目標とします。
	● 外国語I(スペイン語)	スペイン語の学習歴のない学生を対象に、スペイン語の基本的な語彙、発音、簡単な文の構造についての入門的な授業を行います。簡単な自己紹介、短期留学やスペイン語圏への旅行などのときに使う最も基本的な会話ができることを目標とします。
	■ 外国語II(英語) ■ 外国語II(中国語)	外国語I(英語)を履修した学生を対象とし、外国語II(英語)で身につけた、文の構造に関する基礎的知識を活用しながら、英語の運用能力を確かなものにすることを目標とします。 外国語II(中国語)を履修した学生を対象とし、中国語の発音や基礎的な文法事項を復習しながら、文法事項の発展的な内容についてもふれ、中国語検定試験準4級に相当する聴解力、会話力、読解力を達成できることを目標とします。
	■ 外国語II(フランス語) ■ 外国語II(スペイン語)	外国語I(フランス語)を履修した学生を対象とし、基礎的な文法事項を復習しながら、自己紹介、バスや電車の乗り方、ホテルの予約の仕方、買い物、部屋探しなど、初歩の会話に必要な具体的な表現を習得することをめざします。 外国語II(スペイン語)を履修した学生を対象とし、スペイン語の発音や基礎的な文法事項を復習しながら、文法事項の発展的な内容についてもふれ、スペイン語検定試験A1レベルに相当する聴解力、会話力、読解力を達成できることを目標とします。
	■ 外国語III(英語) ■ 外国語III(中国語)	外国語II(英語)を履修した学生を対象とし、外国語II(英語)で養成した総合的な英語力のうち特に、英文を読みとる、英文を聞きとるといったコンプリヘンションの能力をさらに高めることを目標とします。 外国語II(中国語)を履修した学生を対象とし、I-IIで学んだ文法事項を復習し、語彙を増やしながら定着させ、中国語検定試験準4級に相当する聴解力、会話力、読解力を達成できることを目標とします。
	■ 外国語III(フランス語) ■ 外国語III(スペイン語)	外国語II(フランス語)を履修した学生を対象とし、I-IIで学んだ文法事項を復習し、語彙を増やししながら、日常会話に使う平易なフランス語を聞いたり話したりすることができるようにすることをめざします。 外国語II(スペイン語)を履修した学生を対象とし、I-IIで学んだ文法事項を復習し、語彙を増やししながら定着させ、スペイン語検定試験A2レベルに相当する聴解力、会話力、読解力を達成できることを目標とします。
	■ 外国語IV(英語) ■ 外国語IV(中国語)	外国語II-II-III(英語)を履修した学生を対象とし、外国語II-II-III(英語)で養成した総合的な英語力のうち特に、英文を書く、英語で発話するといったプロダクションの能力をさらに高めることを目標とします。 外国語II-II-III(中国語)を履修した学生を対象とし、これまで学んだ文法事項を復習し、語彙を増やしなら、聴解力、会話力、読解力を達成できることを目標とします。
情報処理	● 情報基礎論 ● 情報処理演習I ● 情報処理演習II	情報社会において必要不可欠とされている、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用するための基礎知識を習得することを目的とし、情報の性質、情報システムのしくみ、情報と社会の関係をテーマとし学びます。 大学の情報環境の理解、コンピュータ・オペレーティングシステムの基礎操作、日本語・ビジネス文書作成、レポート・論文作成、Web・メールなどインターネットの活用、プレゼンテーションを、演習で学んでいきます。 表計算ソフトウェアの基礎操作、データ活用と処理、選択課題として、デジタルカメラの利用と画像処理、ホームページ作成、データベースの操作を演習で学んでいきます。
	■ キャリアサポート ■ 自主社会活動	さまざまな分野で活躍中の女性をゲスト講師に招き、キャリア設計をするための指針となる講義を行うほか、卒業後のキャリアを学生が自発的に考えるために参加型ワークショップを行います。 大学生のボランティアや社会活動への参加を促すことを目的に、学生が学内外における社会的な活動を行い、それについてレポートを作成し、学内の報告会で発表します。
	キャリア教育	

○ 幼児教育学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性あります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科目	内容
基礎	● 児童学概論 児童学への入門であるとともに、認識・感性・行為レベルの統合という学びの姿勢を学習していきます。「子ども」について講義し、学びの対象となる子どもへの興味関心を喚起します。
	● 児童学演習 人々が相互理解を深めるためには、どのような体験や意識の積み重ねが重要か、グループ体験や地域における人々との交流活動等を通して考えていきます。
	● 児童学研究法I(量的研究) 児童学・保育学領域における研究の仕方について、心理学的実験や発達検査、各種質問紙法によるデータの収集と分析・評価、検査技法の学習、そこで利用される統計方法の基本的考え方と手続きについて学びます。
	● 児童学研究法II(質的研究) 児童学・保育学領域における研究の仕方について、観察法や面接法、さまざまな記録の方法、事例研究や実践研究等によるデータの収集と分析・評価、研究におけるビデオ等視聴覚教材の活用方法について学びます。
	● 保育方法 幼稚園や養護学校での実習・観察体験を交流させ、現場の先生とともに、いきいきとした子どもの理解について実践的に学びます。
	● 幼児教育基礎演習・幼児教育基礎実習 幼稚園・養護学校における参加観察実習と実習後の保育記録をもとにした20名規模の演習授業です。保育者を志す者としての自己理解を深めます。
保育と教育	● 保育者論 集団のなかで子どもと関わる教師(保育者)の社会的使命、専門性が求められる資質について考えていきます。
	● 幼児教育学 「教育は何のために行うか」「子どものよりよい発達」に関する基本的な問題意識を育て、教育のなかで育つ子どもの姿をいかにとらえ理解していくかを考えます。
	● 教育学 教員となるために必要な知識として、教育の目標・意義、思想、歴史を学び、教育内容、教育課程の意義および編成の方法を学びます。
	● 保育制度・保育政策論 児童幼児をめぐる教育的機関として現代日本の学校・幼稚園の社会的な位置付け、法的・制度的な背景について理解するとともに、保育所などの乳幼児保育の機関との関係、家庭との連携のあり方について学びます。
	● 障がい児保育I 特別に助力を必要とする障がいをもつ子どもの保育について考えます。障がい児保育をめぐる新しい理念の理解をめざします。
	● 障がい児保育II さまざまな障がいについての基本的理解を深め、一人ひとりの保育ニーズに対する援助のあり方、保育上の留意点について具体的に理解します。
	● 保育における教育課程論 保育における教育課程について、保育計画編成の根拠、保育計画と指導案との関係、指導案の作成法など、計画―実践―評価の関連を具体的に理解します。
	● 保育計画 子どもの活動と保育者の援助のあり方について、子どもの発達の流れを配慮しながら、実践的に理解します。
	● 教育方法 各メディアの教育性について再検討し、時代に適した新しいメディア教育の考え方やメディアの利用方法について学習します。
	● 乳児保育I 3歳未満児の成長発達とその特質を理解しながら、保育所および児童福祉施設における未満児保育の内容と実践力の基礎を学びます。
	● 乳児保育II 女性の地位向上、男女共同参画社会のなかでの、保育所における乳児保育の今後のあり方や問題点について考えます。
	● 多文化保育論 多様な文化におけるコミュニケーションのあり方を分析、異文化に出会った時どう対処していくかという実践も学びます。
	● 保育学 保育思想、保育方法について、歴史的に概観し、保育の関係、保育の営みとは何か、その本質を探ります。
	● 保育学演習 保育学をベースに保育の理論的背景と実際について検討します。
	● 保育実践論 保育・幼児教育に関する多面的な視点を学び、実践的な理解を深めます。
	● 保育実践論演習 保育実践を支える理論、具体的な方法論を学びます。
● 保育人間学 哲学的・人間学的な知見を手がかりにして保育事象を読み解き、子どもの世界や保育者のあり方について理解を深めます。	
● 保育人間学演習 保育人間学のねらいを基盤に、関連の著書・論文の講読、それぞれの保育・実習実践のレポートをもとに議論を深めます。	
● 保育カリキュラム論 幼稚園や保育所において教育課程や指導計画がもつ意味とは何かについて、カリキュラムと実践の関係を事例から具体的に検討し、その特徴と独自性を理解していきます。	
● 保育カリキュラム論演習 保育カリキュラム論のねらいを基盤として、実際にカリキュラム(教育課程)を保育実践との関係で自ら「構想」し、「解釈」します。	
● 保育内容総論 保育内容の指導法で学んだ内容について、子どもの活動と保育者の援助のあり方について、発達の流れに配慮しながら、総合的に考察します。	
● 保育内容の指導法(健康) 「心の安定」や「楽しさ」を子どもがもつ過程を学び、遊びを通して健康なこころと身体を育てる保育者の援助のあり方などについて学びます。	
● 保育内容の指導法(環境) 幼児の主体的な生活と環境との相互性、子どもの活動と保育者の援助のあり方などを具体的に学びます。	
● 保育内容の指導法(人間関係) 幼児における人間関係の育ちを援助する保育者のあり方などについて具体的に学びます。	
● 保育内容の指導法(言葉) 幼児の言葉の発達とその援助について具体的に学びます。	
● 保育内容の指導法(音楽表現) 幼児のなから豊かな表現を引き出すことのできる音楽活動のあり方、保育者の援助のあり方などを具体的に学びます。	
● 保育内容の指導法(造形表現) 造形行動のなかに潜んでいる自らの「表現」を見つめ直し、他の人の「表現」に気づくことの意義や意味を再確認するとともに、子どもの活動と保育者の援助のあり方などについて具体的に学びます。	
● 保育内容の指導法(身体表現) 広義の身体表現である子どもの「身体のおしゃべり」のあり方、子どもの活動と保育者の援助のあり方などについて具体的に学びます。	
● 子どもと自然 季節の素材や出来事を利用しながら、保育者自身が自然に親しみ、子どもにとって自然との関わりがいに重要かを理解していきます。	
● 国語概説 国語について、国語科の背景となる日本語学、日本文学、中国文学の基礎的知識と解釈の方法等について、内容を理解してその概要を学びます。	
● 算数概説 算数は、「読み、書き、計算」といわれるように、学習の基礎・基本であることに対して内容を理解してその概要を学びます。	
● 生活概説 生活科においては、自然との関わり、社会との関わり、自分自身との関わりに関する基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学びます。	
発達と臨床	● 生涯発達心理学 胎児期から老年期のそれぞれの時期の発達特徴と発達課題をライフサイクルのなかでとらえ、人間が成長していくこと、成熟していくことを考えます。
	● 保育心理学 発達に対応した学習過程の特徴を把握し、幼児教育の現場で、幼児が意欲をもって自発的に学び、生活していくように援助するための理論や実践のあり方について学習します。
	● 臨床心理学 乳幼児期、児童期を経て、成人期にいたる人間の発達過程とそれに対応する人間の内面世界の広がり、人格形成について学びます。
	● 臨床発達心理学 乳幼児期・児童期の子どもを臨床発達心理学的観点から考えるための理論を学び、さまざまな発達障害について理解を深めます。
	● 保育・教育相談 カウンセリングの基礎理論を学び、現代の子育て状況への理解を深めることで、子育てをサポートする相談活動を担う力を伸ばします。
	● 青年心理学 青年期とは「子ども」から「大人」への移行期間です。アイデンティティ、身体的変化とこころ、性と性役割、職業観など青年期の心理的問題を取りあげます。
	● 発達心理学 言語・認知・社会スキルの発達など、これまで発達心理学で明らかにされてきたことを学びます。
	● 発達心理学演習 発達について多角的に理解するために必要な知識とスキルを身につけます。
	● 発達臨床論 子どもの育ちを支えるためにはどのような関わりが必要かについて実践的な臨床的知識を含めて学び、主として乳幼児期の発達を中心に乳幼児と他者との関係性について学びを深めていきます。
	● 発達臨床論演習 発達障害、虐待、親子関係等さまざまな問題を取りあげ、保育者として必要とされる子どもや親・家族への支援の具体的な方法について考えていきます。
	● 言語発達心理学 言語発達の機軸とメカニズムについて、発達心理学的視点から学び、言語発達を促していく養育者や保育者の関わりについて考えます。
	● 言語発達心理学演習 言語発達心理学の研究に必要な観察・調査・実験などの方法や分析法などを学びます。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科目	内容
生活と福祉	● 子ども家庭福祉I 少子・育児不安・児童虐待など、女性・母親・家庭をめぐる育児状況の危機をとらえ、地域・社会の支援について考えます。
	● 子ども家庭福祉II 児童福祉法をめぐる具体的状況を学び、国際的な視野のなかで日本の子どもや女性・家庭をめぐる福祉について考えます。
	● 社会福祉 社会福祉概念の意味を探るとともに、具体的なテーマを通して、福祉とは何かを自己の問題としてとらえる姿勢を養います。
	● 社会福祉援助技術 社会福祉の現場実践において利用者や家族に対して必要となる関わり方・技術について、具体的に学びます。
	● 養護原理 児童福祉施設における養護の概念の意味を、教育概念と比較しつつ違いと共通性を把握し、養護の限界について問題意識を育てることがねらいです。
	● 養護内容 乳児院、児童養護施設などにおける子どもたちと職員の日常生活のあり方について、援助の問題点、人権擁護の視点から学びます。
	● 子育て支援論 現在行われている支援の具体的実践例を取りあげ、子育て支援の必要性について、少子高齢化・晩婚化の社会状況をふまえ、親だけでなく家族の包括的課題ととらえて考察します。
	● 家族関係論 もっとも身近な社会集団である家族について考察を深めるなかで、社会学の思考能力を高めます。
	● 地域福祉論 地域福祉において、ノーマライゼーション、インテグレーション、当事者参加といった理念の実現の場となり得る地域のあり方について学びます。
	● 児童福祉論 現代社会における児童福祉の役割の多様化と重要性について学び、保育現場で保育者に求められる専門性について理解を深めます。
健康と運動	● 児童福祉論演習 児童福祉論をふまえて、保育所や各種児童福祉施設および支援機関での実践につながるような子どもを見つめる視点とスキルを学びます。
	● 児童保健学I 乳幼児の身体的、精神的な発達の特徴を理解し、家庭や生活環境の重要性、主な病気の早期発見、予防等について学びます。
	● 児童保健学II 集団における感染症の拡大防止や予防接種についての新しい知識など実際の事項を学びます。
	● 児童保健学実習 児童保健学Iで学んだ基礎知識をベースに、乳幼児の健康管理と保健指導の実践について、グループでの実習を中心に学習します。
	● 精神保健 「こころの健康」について学ぶ科目です。ライフサイクルに対応した各生活において、精神保健の理解できるようにすることが目標です。
	● 食と発達 身体の発育と栄養の関わりについて明らかにし、栄養学の基礎知識、小児期の食事によく用いられる食品などの特性を学びます。
	● ネイチャー・ワーク キャンパス内の自然を活用し、自然との対話を基本にして自己を見つめ、活性化していくことをめざします。
	● 体育基礎I(子どもと運動) 子どもを「運動」から「健康」と「運動」から「健康」の両面から考察し、理解を深め、指導者の関わり方について学んでいます。
	● 健康教育学 保育のニーズの多様化に対応し、健康なこころのみならず、子どもと一緒に病気とつき合える保育者となるように日常的な感染症や気管支喘息、アレルギー疾患等について学び、服薬に関しても基礎知識を学びます。
	● 健康教育学演習 健康教育学の授業で学んだ知識をもとに、現場で実践できるように、正しい手洗い方法や脱水、発熱時の水分補給、嘔吐物の処理方法や外傷、骨折時の応急対応など現場で役立つ演習を中心にグループワークなど実践で学習します。
表現と文化	● 音楽基礎I(歌唱法) 歌唱のための技術を身につけ、子どものうたを中心にさまざまなジャンルの曲を通して、音楽への興味関心を高めます。
	● 音楽基礎II(ピアノ基礎技術) 子どもたちの生活のなかで歌や合奏など、表現を楽しむために高いピアノ技術の習得をめざします。
	● 音楽基礎III(楽器演奏) 音楽基礎IIを受けて、さらなる技術のレベルアップと楽器を媒介として自分を表現するというこころに組み込みます。
	● 造形基礎I(感じて表現) 視覚や触覚を通してものにに関わり、感じ考えこころを表現したりする造形行動は、人間同士理解し合える手段として欠かせない行動です。その造形行動の大切さや楽しさを考えていきます。
	● 造形基礎II(考えて表現) 造形行動に興味をもって取り組むことの面白さや気づくことなど具体的な造形あそびを味わいながら、その体験の積み重ねが乳幼児理解に大きく影響していくことを学んでいきます。
	● 体育基礎II(身体表現) さまざまな身体表現形式の歴史を統括したうえで、人間にとっての身体表現はどのような意義があるかを考えます。
	● 表現総論 表現する側と受けとめる側との相互の関係について、乳幼児から大人にいたるすべての人間のかかわり方として表現の意味や意義を考えていきます。
	● 児童文化 絵本、物語、アニメから生活文化全般にいたるまで、子どもと大人がともに織り成し、創造した文化について広く深く探っていきます。
	● 歌唱演習 作品の理解を深めるために曲が生まれた時代背景および詩の内容、ことばと音の関係などを把握し表現に即した奏法、表現法を学習します。また歌い手と聞き手の相関関係についてもグループ発表や試演会などの実践を通して学びます。
	● ミュージック・クリエーション ミュージック・クリエーションでは、授業の一環としてミュージカルにどきどき組んでいます。受講者が、自分たちで演目や振り付けも考え、団結する心もはぐくみます。めざすは学園祭での披露。練習に励むなかで、成長した自分にも見えるでしょう。
フィールドワーク(実習)	● 造形発達と表現 乳児から児童にいたるまでの子どもの発達やその特性を理解するために、「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことを具体的に学びます。
	● ボディワーク ストレッチ、ヨガ、リズムエクササイズ等で、からだの現状を把握し、からだの運動がもつ能力を高め、保育者になった時のからだのケアの方法等も学びます。
	● 児童音楽文化論 幼児の音楽文化の歴史を学ぶことでこれからの音楽文化を考えます。
	● 児童音楽文化論演習 児童音楽文化財を研究し、幼児の発達と児童文化の関わりなど、文化を通じて幼児の世界が広がっていく過程を学びます。
	● 造形保育論 造形は、人間の本性に関わりながら発生する行為です。身近な自然や素材、そして友だちとすばらしい出会いができる環境について考察します。
	● 造形保育論演習 乳幼児の発達や興味に呼応させた保育展開をはかり、具体的な環境づくりについて学びます。
	● 身体表現論 さまざまな身体表現形式の歴史を統括したうえで、人間にとっての身体表現はどのような意義があるかを考えます。
	● 身体表現論演習 幼児期における身体表現活動の理論と実際について学びます。
	● 幼稚園教育実習総論 幼稚園教育実習の事前事後指導を行う授業です。実習の目的、課題を明確化するとともに、具体的な準備や実習日誌の書き方を学びます。実習のなかで学んだことなどの意見交換なども仲間同士で行います。
	● 幼稚園教育実習 保育実践力の獲得をめざし、幼稚園において責任実習を含む4週間の実習を行います。
● 教職実践演習(幼) 保育実習・教育実習を経験したあとで、子どもや保護者との対応のあり方など保育者としての総合的な実践力を身につけることをめざします。	
● 保育実習総論I-II 保育実習の事前事後指導を行う講義です。実習の目的、課題を明確化するとともに、具体的な準備や実習日誌の書き方を指導します。	
● 保育所保育実習I-II 3~4年次に10日間以上保育所で実習します。子どものさまざまな活動を援助できるよう、基本的なコミュニケーション能力を鍛錬します。	
● 施設実習I-II 3~4年次に10日間以上、乳児院、児童養護施設、障害児施設、児童相談所などの居住型児童福祉施設の1箇所でも実習します。講義で学習した各施設の設置目的や社会的意味、組織の成り立ちなど実際に確かめています。	
● 保育インターンシップ 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得に必要な実習とは別に、それぞれの学生の関心や研究課題等に照らして現場で実習を行います。	
● 卒業研究 自らの関心によって自主的に設定したテーマについて論文を作成します。学生生活における学問研究の総まとめです。	

● 児童教育学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性があります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

	科目	内容
教職の意義等に 関する科目	● 教職入門	教職科目のもっとも最初の学修内容として「教員の仕事とは何か」ということを、現在の学校を取り巻く諸問題、教員の社会的な立場などの分析を通して学びます。
	● 教育学概論	教育の原理原則である「教育とは何か」「学校とは何か」「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、今日の学校や教員の社会的問題、幼児児童生徒のこれからの課題等をふまえて学習します。
教育の基礎理論に 関する科目	● 教育心理学	学習の過程「教える」と「学ぶ」の関係、学校集団の特質について、心理学的な知見をふまえて学校教育現場における実際の問題を具体的に学びます。
	● 学校関係法規	学校教育をめぐる法制度の成立過程とその社会的な背景、各都道府県等で定める学校管理運営に関する諸規則等の成立と今後の課題などを、学校教育現場での事例を交えて、教員として必要となる基礎的な制度的知識を学習します。
	● 教育課程・方法論	学校における教育課程において、その意味、教育の方法の成立と授業づくり、ITC等を含めた教育機器の活用と授業づくり、指導と評価の一体化など学校における教科、領域の指導展開に必要な基礎知識や技能を学習します。
	● 初等国語科教育	国語における読解指導を中心として、文学教材、説明文教材等を用いた授業が行えるよう教材解釈、指導案の作成、模擬授業等を行います。
	● 初等算数科教育	低学年、中学年、高学年など「算数」における各学年の指導の要点をとりえて、学習指導案を作成し、模擬授業などを行い指導方法の工夫について学びます。
	● 初等理科教育	基盤となる生活科の教育内容との関連を重視し、観察や実験の指導の基礎が身につくよう、実技を重視し、指導案の作成、模擬授業等を行います。
	● 初等体育科教育	体育科の目標および内容を理解するだけでなく、体育の授業を進めるにあたって不可欠な指導計画(年間計画・単元計画)の立て方から、授業時の具体的展開の方法、指導案の書き方を学習します。
	● 初等音楽科教育	小学校学習指導要領における音楽科の目標および内容を理解させ、教材についての理解を深めることを重視し、鑑賞指導の際の基本を指導し、指導案の作成等を行います。
	● 初等図画工作科教育	図画工作科教育の理念と目標、歴史、学習指導要領、教材内容と指導方法(指導案づくり)や模擬授業等を行い、小学校図画工作科の目標と内容、その指導方法等について学びます。
	■ 初等社会科教育	「社会」の指導の目的や学習内容の系統、指導計画の立て方や指導方法について、具体的な年間指導計画、単元の構成と指導方法について学びます。
	■ 初等生活科教育	生活科の目的やねらいを十分に理解し、指導計画や学習指導案の作成を試み、具体的な教材を使って、模擬授業を行い、生活科の今後の課題やあり方を考えます。
	■ 初等家庭科教育	家庭科の目標、学年の教育内容を十分把握して、年間計画の立て方、学習指導案を作成し、授業づくりの基礎を学びます。
	● 道徳教育	道徳教育の理念や歴史について理解を深め、道徳の全体計画づくりや「道徳の時間」における指導案が作成できるようにするとともに、模擬授業や場面指導などを通して実践的な指導力を身につけます。
	● 特別活動	特別活動の特性と目標を明らかにするとともに、特別活動の内容となっている学級活動、児童活動、クラブ活動、学校行事の内容を実践事例を通して具体的に理解し、意味と役割について学びます。
	■ 保育内容総論	保育内容の指導法で学んだ内容について、子どもの活動と保育者の援助のあり方について、発達の流れに配慮しながら、子どもの充実感と保育者の関わりの意味を検討します。
	■ 保育内容の指導法(環境)	「育つ」と「育てる」の間にある保育内容「環境」、幼児の主体的な生活と環境についてさまざまな視点から保育内容の指導法について、子どもの発達を配慮しながら、子どもの活動と保育者の援助のあり方などについて具体的に学びます。
	■ 保育内容の指導法(人間関係)	幼児における人間関係の育ちを援助する保育内容の指導法について、子どもの発達を配慮しながら、子どもの活動と保育者の援助のあり方などについて具体的に学びます。
	■ 保育内容の指導法(言葉)	幼児の言葉の発達とその援助についての保育内容の指導法について、子どもの発達を配慮しながら、子どもの活動と保育者の援助のあり方などについて具体的に学びます。
	■ 保育内容の指導法(音楽)	幼児のなから豊かな表現を引き出すことのできる音楽活動のあり方など、音楽の保育内容の指導法について、子どもの発達を配慮しながら、子どもの活動と保育者の援助のあり方などについて具体的に学びます。
生徒指導・教育相談 に関する科目	● 生徒指導・進路指導	生徒指導の歴史と社会的背景、その意義、生徒指導の内容と学習指導との関わりなどを通して特に今日問題となっている保護者との関わり、関係機関との連携の方法、児童虐待とその発見、予防的措置など具体的に学習します。
	● 教育相談	教育相談の理論背景や歴史的経緯、児童のこころや身体の問題やいじめや不登校、校内暴力等、とり扱う問題領域などさまざまな点について、基本から現状にいたるまで幅広い視点を身につけます。
教育実習	● 学校参観	学校環境を知り、学校に勤務する教職員の連携、地域と学校との関わり、保護者と教員との関わりなどを、地元の学校、教育委員会と緊密な連携をとり学校に赴き、実際に学びます。
	● 教育実習事前事後指導	教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行います。学校参観で身につけた教職観をふまえて、教員をめざすものとしての責任を自覚し、実際の授業運営能力、教職への理解を深めます。
	● 教育基本実習	教職教育や各教科の指導法、小学校教科専門科目等の知識や技能、「学校参観」の基礎のうえに、さらに学校現場の教員としての実務等を経験します。近隣の学校や教育委員会の協力を得て、大学と学校現場との往来的な学習を行います。
	● 教育応用実習	小学校において、実習校の担当教員から指導を受けながら、実際の教育活動を観察し、実地の授業を行い実践で学習します。
	● 幼稚園教育実習(事前・事後指導を含む)	幼稚園において1週間の教育実習を行います。幼稚園教諭という専門職の役割特性を理解し、幼稚園教諭をめざす人としての責任の自覚と社会性の向上について学習します。
教職実習	● 教職実践演習(幼・小)	1年時から継続して行う「教職指導」により学修履歴を把握し、学生自らが自己目標を立て、その目標への到達をめざした自己評価結果をふまえて、模擬授業や役割演技、場面指導、実技指導等により不足している知識や技能を補います。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

	科目	内容
教科に関する科目	● 国語	国語科の背景となる日本語学、日本文学、中国文学の基礎的知識と解釈の方法等について、内容を理解してその概要を学び、初等国語科教育へとつなげます。
	● 算数	算数は、「読み、書き、計算」といわれるように、学習の基礎・基本であることに対して内容を理解してその概要を学び、初等算数科教育へとつなげます。
	■ 音楽	音楽に関する基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学び、初等音楽科教育へとつなげます。
	■ 図画工作	造形的環境の担う役割は極めて大きく、図画工作科における内容を理解してその概要を学び、初等図画工作科教育へとつなげます。
	■ 体育	体育科に関する基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学び、初等体育科教育へとつなげます。
	■ 社会	社会科教育の理念や変遷について考察を加え、地理、歴史、公民等の基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学び、初等社会科教育へとつなげます。
	■ 生活	生活科においては、自然との関わり、社会との関わり、自分自身との関わりに関する基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学び、初等生活科教育へとつなげます。
	■ 理科	理科指導法の背景となる物理、化学、生物、地学の基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学び、初等理科教育へとつなげます。
	■ 家庭	家庭科において、社会の変化とともに変遷した家庭科教育の歴史を理解し基本的な知識や技能を習得することを目的とし内容を理解してその概要を学び、初等家庭科教育へとつなげます。
	● 特別支援教育概論	特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障がいの特性について学びます。
	● 特別支援教育指導法	特別支援教育を実践するうえで、グループによる調査・報告、役割演技等の演習を通して、教育的ニーズとの関わりについて考え、教育的ニーズの本質について学習します。
	■ 学校関係法規特別講義	教員として最小限必要となる学校関係法規に関する講義を行うとともに、実際の事故事例等への考察が深められるよう学習します。
	■ 表現活動概論	小学校において児童に朗読や歌唱、身体表現などの表現活動を指導する際の基礎的知識や技能について修得します。
■ 表現活動(基礎)	発声法、呼吸法、歩き方、ステップなど、朗読や歌唱、身体表現の基礎となる知識や技術の習得と併せて、その技術を児童に指導する際の指導法について、実際の教材をもとに修得します。	
■ 表現活動(応用)	歌唱、朗読、身体表現を小学校児童などに指導する体験を通して、表現活動を指導する際の技法や知識を学習し、「表現に関する指導」の意味と可能性を理解します。	
■ 学習指導と学校図書館	学校図書館の利用指導の基礎を学習し、各教科や領域における読書指導と学校図書館の活用方法を実際の教育実践事例を通じて理解し、自ら図書館指導計画を学校の全体教育活動と関連させて構築できるよう学習します。	
■ 学級経営と教科指導	担任と児童の間や児童同士の間に関わりあうことがもたらげような学級をつくり、真に児童の身になって共感的に考え、新しい時代の学級経営のありかたを日誌や通信、週案簿など、教師が作成した具体的な資料をもとに考察します。	
■ 教職基礎演習	今日の学校教育上の具体的な課題を考察し、認識を深め、これからの時代における教職員に求められる資質や能力の基礎を養うとともに、心構えなどについて学びます。	
■ 教職発展演習	今日の学校教育に関する諸問題をさまざまな資料を探索しながら考察し、学校ボランティアや学校参観等の体験的学習の成果を結晶化し、これからの時代における教員として最小限必要となる知識や技能を身につけます。	
■ 教職応用演習	学校や教育委員会、保護者、児童生徒等への聞きとり調査や文献調査等を行い、これからの時代における学校教育上の課題を設定し、学生自らがその解決に向けて調査研究を行います。	
■ 介護等体験事前事後指導	介護等体験時に必要となる対人援助、学校教育経験について、コミュニケーションを中心に体験的理解を行い、多様な価値観と幅広い人間観を培うことの重要性について学びます。	
■ 外国語活動	児童にとっての外国語活動とは何かを考察し、児童が学ぶ実践的な場面を考え中高の外国語学習とは異なることを学びます。	
■ 学芸総合演習	人類共通の課題として国際理解、環境問題等、我が国の課題としては福祉・健康や家族関係等の具体的なテーマを選択し、現実の社会の状況を適切に理解し、社会人として必要となる表現力の基礎を身につけます。	
■ 教材研究	「国語」「社会」「算数」「理科」「生活」「音楽」「図画工作」「家庭」「体育」それぞれの教科別に、低・中・高学年それぞれに適した教材づくりを中心とした授業を展開します。	
■ 授業研究	「国語」「社会」「算数」「理科」「生活」「音楽」「図画工作」「家庭」「体育」教科目の特性に応じて行った教材研究をもとに、模擬授業や実際の授業を行い、指導過程の課題を知ったり、指導技術の基本を身につけられるよう実際に学習します。	
■ 教育学特別講義	教育史、教育方法学などさまざまな諸教育分野のなかから、特に最新の学問研究成果とその教育実践への応用方法について学び、卒業論文等学修成果をまとめるように、史(資)料の探索方法、資料の読解について学習します。	
● 卒業研究演習	児童および児童教育(教科教育を含む)に関して、卒業研究の準備を整えることを目的とします。児童教育(教科教育)に関する基礎概念、理論を理解するとともに、教材研究に必要な技法や教科に関する専門知識を身につけるように学習します。	
● 卒業研究	学生が自ら決めたテーマによって、指導教員のアドバイスのもとで、卒業論文を書きあげます。大学生時代に勉強したことを総まとめする科目です。	

教科または教職に関する科目

演習



人間発達心理学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性あります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

	科 目	内 容
生涯発達科目	● 心理学概論	この科目は、心理学専攻生のいわば入り口です。心理学の過去を振り返り、現状(主要テーマ)を見渡し、人間理解の本格的な第一歩にしたいと思います。
	● 発達心理学概論	人が、生まれて死ぬまでの時間を生き、変化していく姿を通して人が発達することとは何だろうか? という発達心理学の基本を学びます。
	● 乳幼児期の心理学	出生から就学までの6年間は、人生の基礎がつけられる重要な時期です。この時期の発達のかみと様相を理解し、次に乳幼児の発達理解の方法を学びます。
	● 児童期の心理学	大人や青年なら誰でも通ってきた児童期。その心身の特質を、心理学的にとらえ直してみるとともに、児童期の重要性について学んでいきます。
	● 青年期の心理学	青年期とは「子ども」から「大人」への移行期です。アイデンティティ、身体的変化とこころ、性と役割、職業観など青年期の心理的問題を取り扱います。
	● 中高年期の心理学	成人期以降の、生涯にわたって展開される「発達」に対する理解と認識を深め、実践力や社会性を重視した知能、社会的能力、精神的な健康の管理能力の発達を学びます。
	● 母子関係論	妊娠、出産、育児という過程で展開される母親の心理について学びます。母子共生、母子分離(3歳と思春期)、子どもの社会化、文化と育児などを取りあげ解説します。
	■ ライフサイクル論	赤ん坊だけが発達するのではなく、母親・父親・兄弟・祖父母などすべてが、互いに影響を受けながら発達するのが家族です。家族が発達する姿を心理学的に理解することを学びます。
	■ 文化と発達	人が社会・文化のなかでどう育てられ、自分をつくっていくかを、いろいろな文化と比較しながら学びます。
	■ 発達心理学特講	人間の発達過程に対する理解を深め、人間が社会の一員としていかに社会的な発達、言語と認識の関わりという視点から言語・認知の発達、個を確立していく過程としての人格の発達を学びます。
心理臨床科目	● 臨床心理学概論	こころの問題を理解するための初歩的な知識や、実際に問題を抱えた人を援助するための基本的な理論・技法について概説していきます。
	● 発達臨床心理学	発達理論、発達研究をカウンセリングの実践に適用することで人間発達の支援をめざします。変動する社会のなかで求められる柔軟な生き方を学びます。
	● カウンセリング基礎I(理論)	カウンセリングマインドを養うために、もっとも基礎的なカウンセリングの心構えや技法を学びます。
	■ カウンセリング基礎II(技法)	カウンセリングには、さまざまな考え方や理論があります。そのうちの代表的ないくつかの理論について修得していきます。
	■ 精神保健概論	精神の健康問題を理解するうえで必須となる理論—フロイトの古典的精神分析療法、力動的療法、ストレス理論—を学習し、人の行動とこころの動きの関連性を考察します。
	■ 幼児期の心理臨床	乳児から幼児にいたる心理社会的発達を学び、次にこの時期の問題行動(食事、排泄、睡眠等基本的な生活習慣に関するもの)の改善や工夫を紹介します。
	■ 児童期の心理臨床	児童期に起こり得る心理的問題を取りあげ、その問題・症状の特質、原因、予防対策、治療法について、具体例をあげて見ていきます。
	■ 青年期の心理臨床	現在の青年期に特異的な問題や病理について、事例を中心に理解を深めています。アイデンティティや親子・友人関係などについて考えます。
	■ 中高年期の心理臨床	老いることの受容と適応・社会的立場の激変・近親者の喪失など、中高年期に遭遇する心理的危機について、具体的な事例を通して考察し、支援や援助の方策を学びます。
	■ 障害者の心理学	障害をもつ人々の心理学的特性を適切に理解することをめざします。(本学科では、他人に悪影響をおよぼす「善」ではなく、妨げになるという意味で「碍」を用いています。)
■ 障害者の発達支援	障害をもつ人たちが、自らの能力を最大限に発揮し、自立と社会参加を実現するための具体的な支援方法や、生涯・障害と向かい合う人々の発達支援について学びます。	
研究法・実習科目	● 心理療法	心理療法の実践について具体的に(生育歴、家族史、問題の聞きとりから理解、共感、生活場から問題のとらえ直し、問題の改善、時の経過による心理的变化)紹介します。
	■ 発達臨床フィールドワーク	幼稚園や学校、保育所や児童施設、病院などで活躍する方との話を聞き、施設での見学や研修を通して、発達臨床心理学を学ぶことでどのように社会に貢献できるかを学びます。
	● 心理学入門演習	心理学の主要分野(発達、臨床、教育、社会など)の専門書や研究論文の講読を通じて、心理学の基本的な考え方を身につけます。
	● 人間発達演習	人間の発達や心理臨床に関連した諸課題からテーマを絞り、関連文献の講読や実証的研究を実施することで、卒業研究に向けた研究方法の習得をめざします。
	● 発達心理学外書講読	発達心理学に関する英文文献の講読を行います。講読を通じて、心理学の英語を理解し、外国語文献の読解方法を身につけます。
	● 心理学方法論	現代心理学の方法である観察法、実験法、面接法、調査法、検査法等について解説します。これらを通じて、他の経験科学との共通点と心理学特有の性質がわかります。
	● 心理統計法	上手にデータをとる工夫、得られたデータをわかりやすく整理する方法、そしてデータから有効な情報を取り出す手法を、いろいろな例を使いながら学習します。
	● 心理学情報処理法	心理学の実証的研究を進めるうえで必要な情報処理技法を習得し、表計算ソフト(エクセル)を利用してデータ解析や図表の作成、レポートの作成を実習します。
	● 心理学基礎実験	小グループに分かれて心理学の基礎的な実験を行います。実験のやり方、データの処理の仕方、レポートの書き方といった心理学研究の基礎的な力を身につけます。
	● 心理検査法基礎	こころの状態を理解するための代表的な検査法について、実際の体験を通して、実施方法や結果の基本的な見方を身につけていきます。
■ データ解析法	統計解析ソフトSPSSの基本的な使い方をマスターし、データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方や解釈の仕方を身につけるための実習です。	
■ 心理学実験実習	心理学で一般的とされる実験パラダイムを理解し、その実施方法の習得を目的として、知覚や認知に関する基礎的な実験を実習します。	
■ 社会調査法	社会調査のやり方、調査テーマの設定から調査用紙の作成、データの解析、報告書の作成までの調査研究の一連の流れを実際に体験し、習得します。	
■ 心理検査法応用	臨床現場で行われているテストバッテリーの組み方、報告書の書き方など実践的な心理検査の活用を学びます。	
■ 行動観察法	「人を科学的に観察する力」を習得します。子どもの観察やビデオ記録を通して、観察する相手、場面、方法、記録について考え、技法を習得します。	
■ カウンセリング技法入門	実習体験を通して、さまざまなカウンセリング方法を学びます。同時に、自分についての理解を深めたり、よりよいコミュニケーションをとれるようになることも目的としています。	
■ 発達・教育相談	幼児教育の現場で幼児との遊びを体験し、プレイセラピーの基礎概念と技法を学びます。子どもたちの父母との対話を体験しながら教育相談を体験します。	
■ インターンシップ	キャリア開発の一環として、企業、公的機関、NGOなどで2週間程度の就業体験をします。	
■ 発達支援活動	新産市など埼玉県内の小中学校で児童生徒への援助や教員・スクールカウンセラーの補助を行います。大学での学びを活かす経験となります。	
社会科学科目	● 社会心理学概論	社会心理学は、他者の存在する状況—社会が人の行動にどのような影響を与えるかを研究する学問です。社会心理学の研究知見を概観し基礎知識を身につけます。
	■ コミュニケーションの心理学	人と人とのコミュニケーションを支える私たちのこころや行動について、基本的な特性を理解し、身近な問題に活かせるようにします。
	■ 対人社会心理学	人は他者をどう見るか、偏見はどのように生まれるか、嫉妬心や羞恥心などの感情をどんなときに感じるか…など、対人場面での心理的現象について検討します。
	■ 人間関係の心理学	よい人間関係をつくることは多くの人の関心事です。人はどんな人を好きになるのか、どうやって親しくなっていくのかといった問題について心理学的に考察します。
	■ グループダイナミクス	集団内での人間の行動を研究する分野をグループダイナミクスといい、集団の形成、リーダーシップ、集団意志決定などの集団にまつわる心理学的問題を解説します。
	■ 産業・組織心理学	産業社会での生活では経済活動、組織活動そして人間関係の営みについての知識が欠かせません。社会・企業でのメンタルヘルスについて考えます。
	■ キャリア心理学	職業意識、進路選択などのキャリア形成に関わる心理学的研究について概観し、学生自身の進路選択について真摯に向き合う契機となることを目標としています。
	■ 消費行動の心理学	消費行動、広告の効果やメディアの影響、価値観、流行の発生など、消費行動について心理学的な観点から学び、ミクロな個人の行動がマクロな経済活動につながっていることを理解します。
	■ 職場のメンタルヘルス	産業領域でのカウンセリングおよびメンタルヘルスマネジメントの役割について取りあげ、こころのバランスを崩さずに自分らしく生きていくことや不調をきたした人に対するような援助が望ましいかを学びます。
	■ 家族心理学	日本社会における家族の機能や特徴を歴史的背景から理解し、家族のなかで発生する心理的トラブルを解決する方策を、家族システム論や家族療法を通して学びます。
生活科目	■ 認知心理学	言語活動の基礎である「認知機能」の特徴を、心理学の視点から学び、人間の記憶、知識、思考について考察します。
	■ 性格心理学	なぜ人には「性格」というものがあるのか、どんな種類があるのか、それはどうつくれるのか、そしてつくり直せるのか。そんな日常感じている疑問について考えます。
	■ 食の心理学	食行動とこころがどう関係しているかを探求し、人間の感情の変化と食行動の関連について心理検査を用いて接近します。個人差、体質、個人内変動、飲食のメカニズムを学びます。
	■ 身体運動の心理学	身体を動かす体験はとでもリアルです。そのしくみを学びながら「身体ってすごい」、「私もあなたも生きている」と感じ、ヒトを見る眼を豊かで柔らかくします。
	■ 健康心理学	健康を維持・増進し病気を予防・改善するために有効な心理学的知識や技術を学びます。健康行動を強化するプログラム、ストレスマネジメントの方法を扱います。
	■ 創造性の心理学	現代社会をよりよく生きていき、また人類社会の進歩・発展にとって欠かせない創造性というものについて、その理論やノウハウを詳しく見ていく予定です。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

	科 目	内 容
教育保健科目	■ 教育心理学I	学習の過程、教授学習の様相、学級集団の特質について、心理学的な知見をふまえて、学校教育現場における実際的な問題を具体的に考えることをめざします。
	■ 教育心理学II	児童生徒の心身の発達について学習し、「発達」という心理学的な概念の理解をふまえて、受講生自身の成長・発達の様子を、客観的にとらえ直すことをめざします。
	■ 生徒指導	学校教育における生徒指導の意義と理論を学び、より具体的なテーマ—問題行動の指導、ホームルームでの進め方、進路指導—の実践的指導方法を習得します。
	■ 教育相談	子どもはそれぞれに期待や欲求をもち、それを実現しようと果敢に挑戦します。時に失敗し、不適応に陥ります。こうした状況の子どもたちをどう支援するか学びます。
	■ 子どもの生活支援	子ども時代をどう過ごすかということは、子どもの将来にとっても大切なこと。未来を担う子どもたちが心身ともに健全に成長するための生活支援を学びます。
	■ 養護概説	学校教育現場における養護教諭の職務や活動を理解するとともに、養護教諭・保健室の機能について、具体的な活動事例を通して認識を深めていきます。
	■ 学校保健I	児童期・青年期における健康の保持増進に不可欠な保健教育と保健管理について、具体的な内容にもとじて理解を深める予定です。
	■ 健康相談活動	小学校児童・中学・高校の生徒からのごときと身体の相談に対応するために必要となる理論と技法を学習します。相談活動の開始から終結までの具体的な取り組みを学びます。
	■ 免疫学	人間の身体防衛を担当し、神経系や内分泌系とともに恒常性(ホメオスタシス)を構築している免疫システムについて理解を深めます。
	■ 衛生学	身体的・精神的機能を十分に発揮して長寿を全うすることは万人の願いです。感染症、生活習慣病、免疫とアレルギー、老化に関する基礎的知識を学び、その先端科学を理解します。
	■ 公衆衛生学	人は生命をめぐり自然環境、日常生活を支える生活環境、また集団として社会環境のなかで生きています。これらの環境を保全し、健康を維持し、豊かな生活を確保することを学びます。
	■ 看護学概論	看護とは何か? 対象である人に対する倫理的配慮や権利を守ることはどういうことなのか? など、看護の概念や看護の果たす機能や役割を勉強します。
	■ 看護援助方法	病気は人の生命力を消耗します。生命力の消耗を最小限にし、人の自然治癒力の向上をめざす基本的な看護技術について学びます。
	■ 小児保健看護学	成長発達を続けている子どもたちに生じるこころと身体の問題について学習します。また健康障がいをもっている子どもたちの心身の援助についても学びます。
	■ 救急処置実習	救急処置に必要な人が目の前にいます。何をどのように観察し、それをどう判断して、どのような行動をとればよいのでしょうか。そんなことを学びます。
	● 卒業研究	人々の発達・臨床・社会・生活に関連したテーマについて、人間発達演習で修得した知識や研究方法を活用しつつ研究を進めます。

養護教諭一種免許状の取得に必要な科目 (学科の科目と並行して履修する必要があります)

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

	科 目	内 容
養護教諭一種免許状取得に必要な科目	● 教職入門	現代社会における学校教育の課題を理解し、教員の職務内容(服務・研修)について学び、教員採用など進路選択に向けた学習態度の形成をめざします。
	● 教育基礎論	近代学校制度の礎となる教育理念や教育思想について、歴史的変遷をふまえて理解を深めます。学校教育に関する社会的・制度的・経営的事項を学びます。
	● 教育方法I	中等教育における教育方法学の基本を学びます。教育課程の意義や構成を理解し、学習指導の原理や教育メディアを活用した指導技術について具体的に学びます。
	■ 教育方法II	中等教育における教育方法のあり方について、授業設計を中心に学びます。授業設計に取り入れるべき情報機器の活用方法について理解を深めます。
	● 道徳教育	初等・中等教育における「道徳教育」の理念や歴史に対する理解を深め、学校現場における道徳教育の進め方を、多角的に考察します。
	● 特別活動	学校教育における特別活動の位置づけを理解し、学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成という視点から特別活動のあり方・進め方を考えます。
	● 総合演習	今日の社会をより多角的・より総合的に理解する能力を向上させるために、情報社会・国際理解・環境問題・地域社会という側面から、演習形式で学習を進めます。
	● 養護実習I	養護実習前、養護教諭の職務内容に関する知識・技能を再確認し、実習後には、自らの実習体験をもとに、養護教諭や保健室の役割について理解を深めます。
	● 養護実習II	受け入れ校で4週間の実習や、学校保健活動の位置づけ、学校保健組織を実践的に理解し、保健室の機能と養護教諭の役割について実務を通して理解します。
	■ 教育実践論	中学校教員免許の取得に義務づけられている介護体験に必要な基本的な知識を修得し、中等教育における総合教育の優れた実践事例について学びます。
	● 教職演習I	教職に関する科目の既修得事項について、総合的な観点から整理して理解し、教員に求められる資質や態度の認識を深めていきます。
	● 教職演習II	教育現場の今日的な課題—人権教育、学級経営、勤労体験学習、男女平等教育—に対する認識を深め、各自が理想とする教員像の明確化を図ります。
	● 学校保健II	学校保健Iで、学習したことをもとにさらに保健教育、保健管理について理解を深めていきます。
	● 養護教諭実践論	学校現場における養護教諭の活動を具体的に知り理解することを通して、養護教諭の職務遂行に必要な実践能力の向上をめざします。
	● 基礎栄養学	基本栄養素(炭水化物、糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン)の生理的機能を学びます。さらに、日常の食事による栄養摂取についての理解を深めます。
	● 食品学	動物性食品を中心として、その特徴・品質、生産から利用加工にいたるまでの過程、貯蔵法について理解を深めます。
	■ 食機能論	食品がもつ第三の機能(生体に対する調節機能)について理解を深めます。食品による免疫系の賦活・生活活性、保健機能食品制度などについて学びます。
	■ 解剖生理学	正常な人体の構成単位である細胞レベルから、組織、器官レベルまでの構造や機能を体系的に理解することをめざします。
	● 解剖生理学特論	基本的な人体のしくみと機能を理解し、健康な状態が維持できない病的な状態について、生体内で何が起きているのかを学習します。
	■ 食薬理学	人体と化学成分との相互作用を扱う薬理学的な観点から、化学成分・栄養成分・食物成分に対する理解と、人体の各機能にもたらす効果について理解を深めます。
● 児童生徒の精神保健	児童期・青年期の問題行動やこころの疾病について、基本的な知識とその対策を理解し、具体的な症例の紹介を通して、家庭・学校・医療機関の連携について学びます。	

○ 食物栄養学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性があります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科 目	内 容	
社会環境と健康	● 健康管理概論	社会や環境の変化が人間の健康に与える影響について学びます。健康増進や疾病予防の考え方、健康を保持・増進するために社会や環境はどうかについて理解を深めます。
	● 公衆衛生学	公衆衛生の概念について学びます。人口統計、衛生統計などのデータを読み込みながら、各種保障制度についての理解を深めます。
	● 公衆衛生学実験	環境要因と健康との関係を理解するために、さまざまな環境因子を測定するとともに、いくつかの因子の生態作用を確認していきます。
	● 健康情報処理実習	情報を適切に扱う基礎的能力を養い、コンピュータを利用した情報処理の実践を身につけます。インターネットの活用、健康に関する情報の収集等を学びます。
	● 社会福祉概論	「社会福祉とは何か」を出発点として、社会福祉・地域福祉の概念や歴史、社会福祉の形態などについて学びます。
人体の構造と機能 疾病の成り立ち	● 解剖生理学	人体の構造とそれぞれの機能の基礎を理解し、遺伝子レベルから、細胞、さらに消化系、呼吸系などの系統別機能を学んでいきます。
	● 解剖生理学実験	解剖生理学で学んだことを、実際に解剖を行い確認していきます。目で見て確かめて、講義内容の理解をいっそう深めていきます。
	● 人間生物学	炭水化物や脂質、アミノ酸、ビタミン、ホルモンなど、それぞれの化学と体内での役割について学びます。
	● 運動生理学	身体運動によって、身体の生理学的な諸機能がどのように変化するのかを学び、健康やスポーツのための運動について考えます。
	● 人間生物化学実験	人の唾液や尿、あるいは実験動物の血清や肝臓など、生体成分を機器類を用いて分析していきます。
	● 人間生活生理学	解剖生理学で学んだことを基礎とし、人体が行う食事、運動、休養等の基本的な生活の成り立ちや人体機能が環境の変化にどのように対応するかを学びます。
	● 医学概論	感染症から生活習慣病にいたるまでの近代医学の歴史を理解したうえで、医学の本質はどうかを考察します。
	● 生理学概論	生理学を基礎としたうえで、呼吸器系、循環器系、血液系、神経系、ホルモン、代謝系、電解質、アレルギーなどの病的状態を解説します。
	● 系統別疾病学	主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて学びます。生活習慣病、消化器疾患、腎疾患、代謝・栄養疾患等の疾病分類ごとの概要について理解を深めます。
	● 病原物質・微生物学	微生物が人間の食生活におよぼすデメリットを理解するために、さまざまな種類の微生物の生態について学習します。
食へ物と健康	● 微生物学実験	微生物の取り扱いの基本を習得します。代表的な菌種を用いて、微生物の培養を実際に行います。
	● 食物栄養学概論	正しい食事の概念を学び、食物に対する考え方や日常の食物摂取のための食事指針、食事摂取基準について学びます。
	● 食品学I-II	食品成分についての基本的知識、食品の種類、植物性・動物性食品の特性や加工食品・微生物食品について学びます。
	● 食品化学	食品学で学んだ糖質・脂質・タンパク質・色素・呈味成分・香気成分等の変化、さらに成分間の反応について解説します。
	● 食品化学実験	食品の一般分析、油脂の化学的・物理的測定、しょうゆ中の食塩を定量分析し、食品の特性に対する理解を深めます。
	● 食品加工実習	冷蔵・冷凍、缶詰、乾燥など、食品の貯蔵・加工の方法や品質の変化について学びます。また加工食品の製造法、保存法、規格や表示についても解説します。
	● 食品加工学実習	プロセスチーズ・アイスクリューム・こんにゃく・とうふ・みかんの缶詰等を実際につくり、食品加工学についての理解を深めます。
	● 栄養化学	炭水化物、タンパク質、無機質、ビタミンなどのそれぞれの化学、消化吸収度、代謝についての知識を修得します。
	● 調理学	調理技術の向上と食生活の実践に役立てるために、自然、社会、人文の諸科学を基礎として、調理に関する法則を明らかにします。
	● 調理学実習I-II	日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な献立と調理を学び、給食管理や家庭料理に自在に活用できる実力をつけます。
基礎栄養学	● 調理学実習III(実験を含む)	実験を通して食品素材の調理による変化について理解を深め、一方で様式別の日常食、供応食の実習をします。
	● 調理学実習IV	調理学実習I-IIを基本とし、献立としてのまとめ方、調理技術力を強化し応用力を養います。
	● 食品衛生学	食品衛生行政、食品衛生関係法規、食中毒、食品添加物、食品衛生対策などを通して、食品衛生の基本概念を学びます。
	● 食品衛生学実験	微生物を定性的および定量的に測定。器具の乾熱滅菌、培地の調整や滅菌などの微生物実験の基礎を習得しながら、食品衛生の基礎知識を養います。
	● 基礎栄養学	栄養とは何かを学びます。エネルギーと各栄養素の機能と代謝について理解を深め、健康の保持・増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を修得します。
	● 基礎栄養学実験	タンパク質およびアミノ酸、糖質、脂質、無機質などの定性を測定するなど、基礎栄養学の講義にもとづいた実験を行います。
	● 応用栄養学I	各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解します。
	● 応用栄養学II	妊娠や発育、加齢等人体の構造や機能の変化にともなう栄養状態の変化に応じた栄養管理の考え方を理解します。
	● 応用栄養学III	ライフステージ特に注意しなければならない病気と関連させて、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理・栄養アセスメントの考え方を理解します。
	● 応用栄養学実習	応用栄養学をベースに、各ライフステージにおける栄養特性ならびに栄養目標に応じた食事づくりの実習をします。
栄養教育論	● 栄養教育論I	健康・栄養状態、食行動、食環境等の情報の収集・分析に関し、演習の技法を取り入れながら学びます。
	● 栄養教育論II	対象者特性(ライフステージ)、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について学びます。
	● 栄養教育論実習I	栄養教育・健康教育の専門家として必要な実践手法を修得します。各栄養教育の場やライフステージ別の栄養教育実践の場で役立つよう授業を進めます。
	● 栄養教育論実習II	栄養教育を行うにあたって重要な資料となる栄養調査について、その必要性と調査方法の基礎知識を学び、また、女子大生・中高年・高齢者等を対象とした栄養調査の実習を行います。
	● カウンセリング論(演習を含む)	カウンセラーの人格、カウンセリング技術、カウンセリングの進め方など、演習を取り入れながら学び、カウンセリングの理論と技法を習得したうえで栄養教育への応用を試みます。
臨床栄養学	● 臨床栄養学I	傷病者等の病態や栄養状態の特徴にもとづき、適正な臨床栄養ケアと総合的マネジメントの実行能力を高めます。
	● 臨床栄養学II	チーム医療の枠組みにおける管理栄養士の位置づけや職務を学び、管理栄養士と各専門職との連携のための人間関係や組織内マネジメント、栄養アセスメント情報の入手や管理法等を学びます。
	● 臨床栄養学III	各ライフステージにおける種々の疾患をはじめ、さまざまな身体状況・栄養状態・ライフステージに対応した臨床栄養管理について、実践的知識を修得します。
	● 臨床栄養学IV	特に生活習慣病に重点を置いた臨床栄養管理について、食事療法を含む栄養補給法を包括して、実践的知識を修得します。
	● 臨床栄養学実習I	特に栄養管理が重要な疾患について、栄養の役割と食事療法の重要性を、演習・実習の技法を取り入れながら学びます。
公衆栄養学	● 臨床栄養学実習II	臨床栄養アセスメントにもとづく適正な臨床栄養ケアおよび総合的マネジメントの実行能力を体得するために学内実習を行います。
	● 公衆栄養学I	国民栄養の現状と課題、食事摂取基準、食糧問題、社会的要因の栄養問題、諸外国の栄養問題を学びます。
	● 公衆栄養学II	地域公衆栄養活動の計画・実施、地域公衆栄養活動の組織づくりの方法、公衆栄養活動の現状を学びます。
	● 公衆栄養学実習	保健所や保健センター等、公衆栄養活動をするための地域栄養計画のあり方について設定したモデルから、演習を通して学習していきます。
	● 給食経営管理論I	対象者のニーズと給食条件に合致した栄養管理について学ぶとともに、給食組織の運営、原価管理、人事管理などのマネジメントについて学びます。
給食経営管理論	● 給食経営管理論II	集団給食について、栄養管理、衛生管理、食材料管理、作業管理、調理法、供食の方法等について学びます。
	● 給食経営管理論実習	大量調理の計画と実施や効果判定についての実習を通して、集団給食施設の管理技術や考え方の修得をめざします。
	● 総合演習I	専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、各領域で栄養評価や管理が行える能力を養います。
	● 総合演習II	臨地実習を効果的に進めるため、臨地実習の事前・事後指導を行います。
	● 臨床栄養臨地実習I	臨床現場で、栄養管理の専門職としての栄養業務の実際を観察・体験し、医療における栄養管理の意義や方法を理解します。
臨地実習	● 臨床栄養臨地実習II	臨床現場における栄養ケア・マネジメントの実際を理解し、栄養ケアに関わる専門的知識・技術の統合を図り、医療現場における管理栄養士としての資質を培います。
	● 公衆栄養臨地実習	保健所・市町村保健センター・健康増進センターにおいて、地域の健康づくり推進、住民の栄養改善に関する企画・調整など、臨地実習を通して学んでいきます。
	● 給食経営管理臨地実習	給食経営管理論で学んだことをもとに、学校、事業所、福祉施設などで経営管理や生産管理を給食に応用展開する方法や技能を、臨地実習を通して学びます。
	● 給食運営臨地実習	学校給食、事業所給食、福祉給食施設等のうち1カ所を選択し、栄養・食事管理を行う給食運営の方法や技能を1週間の臨地実習にて修得します。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科 目	内 容
● 食育論	次世代の子どもの育成を支援するために必要な食との関わり方を理解し、食をくぐり、食でくぐり、食でくぐり、実践を交えて学びます。
● 食文化人類学	食を文化の視点からとらえて、日本における東西の食文化、食習慣、食の道具や食作法等を比較・考察していきます。
● 食と環境	環境を含めた「食」の循環の全体像を理解し、生活の質(QOL)と環境の質(QOE)のよりよい共生をめざすことのできる知識を身につけます。
● 食物史	人類の歴史のなかで食の大切さを考えるとともに、日本人の食生活への外国からの影響を学びます。食生活の変遷を振り返って、将来を見通す目を養うことがねらいです。
● 食生活論	現在の食生活環境において、どのような食生活を構築したらいかを多面的に考察します。食生活を指導する立場としての心構えを学びます。
● 食品機能論	栄養、嗜好に続く第3機能として注目されている、生体に対する食品の調節機能について学びます。
● 食のリスクアナリシス論	人の健康に有害な影響をおよぼす、食に関わるさまざまなリスクを分析・評価して、安全性を確保する方法を学びます。
● 食薬理学	薬理的な観点から栄養成分や食物成分について解説します。傷病者の病態や栄養状態の特徴にもとづく適正な栄養管理に必要な基本的知識を身につけます。
● 人間生命科学	生命体としての人間の特性を学び、生命への尊重の念を培うことをめざして、生命の起源と進化、生物多様性、微生物と人間の共存などを学びます。
● 人間栄養学概論	食品成分の新たな機能の発見と栄養概念の転換、食理学のすすめ、食糧安全保障など、人間らしく生きるうえでの栄養の重要性について講義していきます。
● 分子栄養学	栄養現象や栄養素・食品成分の機能を生体高分子の構造と分子間相互作用にもとづいて理解していきます。
● 生物有機化学	人が摂取する食べ物の多くは生物です。これをふまえて、適正な食生活を行うために必要な有機化合物についての基礎知識を修得します。
● 健康科学概論	健康に関する総合的な知識を得ることを目的に、生活習慣病予防に役立つ健康な生活習慣について学びます。
● 保健指導カウンセリング(演習を含む)	特定保健指導に必要な知識とカウンセリングの技術を身につけるために、クライアントを設定し、実践的知識を修得します。
● 実践臨床カウンセリング(演習を含む)	臨床データにもとづく栄養管理を実践的に体験するために、クライアントを設定し、カウンセリングおよび臨床栄養ケアの実行能力を養います。
● World of the Food and Nutrition	身の回りの食品と健康に関する話題を扱った英文を読むことにより、栄養や食に関する専門的な語彙に関する知識を身につけ、読解力を向上させます。
● 食物栄養学演習	専任教員によるオムニバス形式の演習授業で、管理栄養士に求められる知識や技術を確実に習得し、ステップアップを図ります。
● フードスペシャリスト論	フードスペシャリストの養成と資格およびその役割について解説しながら、食の専門家としての意識づけを行います。
● 食品の官能評価・鑑別論	食品の品質評価法として、人の五感で評価する官能評価の基本および実施方法について学びます。
● 食料経済(食品流通経済を含む)	食料システム、食料の経済学、食料の社会学等、食料に関する経済的な側面について学びます。
● 食品商品学	加工食品を取りあげ、食品の品質、価格、機能について、消費者の立場に立った食品選択の専門知識を身につけます。
● フードコーディネーター論	食と感性、調理文化、現代の食文化、サービスマナー、トータルプランなど、食の分野の専門職として、フードコーディネーター能力を養うための基礎と実技について学びます。
● 生涯発達人間学	生涯発達という観点から人間とらえ、乳幼児期から高齢者期までの生涯を通じた発達発達について、身体的、心理的側面両面から学びます。
● エアロビク運動I(水泳・水中運動)	健康運動実践指導者の資格取得に必要なエアロビク運動について理論を学び、水泳・水中運動に必要な基本知識を学習します。
● エアロビク運動II(エアロビクダンス)	健康運動実践指導者の資格取得に必要なエアロビク運動について理論を学び、エアロビクダンスに必要な基本知識を学習します。
● エアロビク運動III(ジョギング・ウォーキング)	健康運動実践指導者の資格取得に必要なエアロビク運動について理論を学び、ジョギング・ウォーキングに必要な基本知識を学習します。
● 健康運動指導実習	人が運動を行ったときの生理学的応答をどのように測定評価するかを学び、測定法と評価法を理解していきます。
● 安全・救急法演習	怪我や急病に対応できる救急処置に必要な疾病を理解し、基本的な対処方法を学びます。
● インダストリアルハイジーン論I	第1種衛生管理者の資格取得のために、労働衛生5管理のうち、作業環境管理と作業管理と労働衛生管理体制の確立を中心に学習します。
● インダストリアルハイジーン論II	第1種衛生管理者の資格取得のために、労働衛生5管理のうち、健康管理と労働衛生教育を中心に学習します。
● 衛生行政I	労働衛生行政における労働安全衛生法について学び、さらに、労働安全衛生規則、有機溶剤中毒予防規則などの関連法規について学習します。
● 衛生行政II	労働衛生行政における労働基準法について学び、さらに、石綿障害予防規則、事務所衛生基準規則など、労働安全衛生法の関連法規について学習します。
● 卒業研究	自らの関心によって自主的に設定したテーマについて調査、実験等により研究成果を卒業論文としてまとめます。



● 人間福祉学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性あります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科 目	内 容
● 社会福祉概論I	Iでは社会福祉の原理と思想について学び、IIでは福祉政策の課題や関連施策の関係について理解を深めます。
■ 社会福祉概論II	
■ 高齢者に対する支援と介護保険制度I	高齢者の生活実態やこれを取り巻く社会経済的背景をもとに高齢者福祉制度の発展過程を学びます。
■ 高齢者に対する支援と介護保険制度II	高齢者の生活問題のなかでもとりわけ重要な介護問題に焦点をあて、介護の理論や技法等について学びます。
■ 障害者福祉論	障がいのある人の生活支援のあり方と障がい者自立支援法による障がい福祉サービスについて学びます。
■ 医学一般	心身機能や疾病・障がいについて、成長・発達および日常生活との関係をふまえて学びます。
■ 権利擁護と成年後見制度	相談援助活動において必要となる法的基礎や成年後見制度について学びます。
■ 心理学理論と心理的支援	心理学理論による人の理解とその技法の理解を基礎として、社会福祉士に必要な心理的支援の方法と実際を学びます。
● 社会保障論I	現代社会における社会保障制度の課題、社会保障の概念や対象、社会保障の理念、発達過程、社会保障制度の体系と概要について学びます。
■ ソーシャルワーク論I	社会福祉に関する専門職制度の意義と社会福祉士の役割について学びます。
■ 生活学概論	生活の諸相である衣生活・食生活・住生活・家族生活などについて学び、日常生活を充実させていくための総合的な視点と総合力を養います。
■ 社会福祉の歴史	近年社会福祉の制度は大きく変化していますが、目的の変化だけにとどまらずにはなく社会福祉の根幹を長期的な視野でとらえられるように社会福祉の歴史を学びます。
■ 養護原理	児童福祉施設で生活する児童を支援するための基本的な考え方や方法を学びます。
■ 女性と福祉	社会的・文化的性差(ジェンダー)の視点から、現代の福祉をより深く学びます。
■ ソーシャルワーク論II	相談援助の概念を学ぶとともに、相談援助における権利擁護と専門職の倫理について理解を深めます。
■ ソーシャルワーク論III	相談援助技術における人と環境の交互作用に関する理論について、また相談援助の対象とさまざまな実践モデルについて学びます。
■ ソーシャルワーク論IV	相談援助の過程および相談援助の面接技術について学びます。また、専門的援助関係について考え論じていきます。
■ ソーシャルワーク論V	相談援助における社会資源の活用・調整・開発、他職種・他機関との連携等について事例をもとに知識と技術を理解します。
■ ソーシャルワーク論VI	相談援助におけるスーパービジョン、事例分析、相談援助の実際について理解します。
■ 就労支援サービス論	労働法規の内容と、生活困窮者や障がいのある人への就労支援制度の概要について学びます。
■ 児童・家庭福祉論	子どもの置かれている現状と課題について考察し、児童および家庭支援のあり方を学びます。少子化対策をはじめ児童福祉施設の具体的な内容について考察を深めます。
● 地域福祉論I	地域福祉の基本的考え方や地域に関わる組織、団体および専門職の役割と実際について理解します。
■ 地域福祉論II	地域福祉の推進方法やネットワークの意義と方法およびその実際について理解します。
■ 社会調査の基礎	社会調査法の基礎知識を学び、調査の企画・実施・分析などを実践的に身につけます。
■ 福祉行政と福祉計画	福祉の行政の実施体制や現状について、財源調達の方法を含めて理解を深めます。また策定されている福祉計画の意義や目的、その方法について学んでいきます。
■ 社会理論と社会システム	現代社会をシステムとしてとらえ、また家族や地域の生活と生活問題について考えます。
● 公的扶助論	低所得の人たちの生活実態とその社会情勢について理解を深め、生活保護制度について広く理解します。
■ 保健医療サービス論	相談援助活動において必要な医療保険制度や、そのなかでの専門職の役割について理論的な側面および実践的側面の双方から学びます。
■ 社会保障論II	社会保障制度の体系、年金保険制度および医療保険制度の具体的内容、公的保険制度と民間保険制度の関係、諸外国における社会保障制度の概要について理解していきます。
■ 更生保護制度	犯罪者の更生保護に関する制度の概要とその担い手の活動内容について理解を深めます。
■ 社会福祉施設経営論	福祉サービスに関わる組織や団体などについて理解するとともに、その経営や管理運営について学びます。
■ 相談援助演習I	
■ 相談援助演習II	
■ 相談援助演習III	社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、実技指導を中心に学びます。
■ 相談援助演習IV	
■ 相談援助演習V	
■ 基礎介護論I	介護は人権です。介護の歴史や社会化の過程、国民の介護福祉への期待、介護現場の実態などを見つめるなかで、介護のあり方を学びます。
■ 基礎介護論II	さまざまな場における介護福祉士の役割とその社会的展開を探ります。
■ 介護と倫理	利用者の人権を守り、尊厳を支えるために必要な職業倫理を学びます
■ 介護と自立	自立とは何か? 身体運動の基礎やリハビリテーションの初歩を学びます。
■ 介護と環境	介護者にとっても利用者にとっても安全で心地よい環境づくりを学びます。
■ 介護と地域	障がい者、高齢者の地域生活を豊かにする地域連携や支援のあり方を学びます。
■ コミュニケーション技術I	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて学びます。また、対話技法を中心とした積極的傾聴の技術と基本姿勢を学びます。
■ コミュニケーション技術II	
■ 生活支援技術概論	生活支援の考え方、生活支援技術の意義と目的について、学びます。
■ 日常生活支援技術I	
■ 日常生活支援技術II	日常生活のなかで支援を必要とする人々に、自立を尊重した介護を提供できるように、身じたく・移動・食事・入浴などの基本的な介護技術を学びます。
■ 日常生活支援技術III	
■ 生活環境支援技術	日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備をすすめるための基本知識や基礎技術について学びます。
■ 家事生活支援技術	家庭生活を中心とした人と環境との相互作用について学び、日常生活を充実させるための総合的な視点と思考を学びます。
■ 生活支援技術応用I	利用者一人ひとりがその人らしい生活を送ることができるように、利用者の状態・状況に応じた介護の工夫と留意点について学びます。
■ 生活支援技術応用II	
■ 生活支援技術展開I	利用者がいきいきと生きがいを感じるような生活全体を活性化するための援助活動の基本的な方法と、援助者の果たすべき役割について学びます。
■ 生活支援技術展開II	終末介護のあり方について、個々の感性、人間観、共感を土台に深め、個々の死生観をもち専門職としての介護能力を高めます。
■ 介護過程基礎I	介護の実践を行う際の見立てと根拠にもとづく判断の方法を学び、ケアプランの作成方法を学習します。
■ 介護過程基礎II	
■ 介護過程展開I	「介護過程」が老人介護や障がい者介護の現場でどのように展開されているのか、その実際を学びます。
■ 介護過程展開II	
■ 介護サービス計画	介護保険制度におけるケアマネジャーが作成する介護サービス計画とはどのようなものを学びます。
■ 発達と老化I	発達の観点からの老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化に関する基礎的知識を学びます。
■ 発達と老化II	
■ 認知症の理解I	認知症に関する基礎的知識とともに、認知症のある人の体験や意思表示の困難な特性を理解し、家族を含め周囲の環境に配慮した介護の視点を学びます。
■ 認知症の理解II	
■ 障がいの理解I	障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識の修得とともに、障がいのある人の体験を理解し、家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点について学びます。
■ 障がいの理解II	
■ ところとからだのしくみI	介護技術の基本となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について学びます。
■ ところとからだのしくみII	

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科 目	内 容
■ 社会福祉基礎実習	福祉は理論と実践の両輪がともなうことが必要です。そのための本格的な配属実習に先立って、施設などを見学し実態にふれて、福祉の理解を深めます。
■ 相談援助実習指導I	
■ 相談援助実習指導II	社会福祉実習の中核を占める相談援助実習の意義を理解するとともに、個別指導、集団指導を行うことにより、実習に出るための準備学習、事後学習を行います。
■ 相談援助実習指導III	
■ 社会福祉実習	社会福祉現場に臨み、社会福祉士として求められる相談援助を中心として社会福祉に必要とされる知識、技術、倫理を具体化し、実践的に学びます。
■ 介護総合演習I	
■ 介護総合演習II	実習ごとに、実習の事前学習(実習前)、実習内容のチェック(実習中)、実習の振り返り学習(実習後)の指導を行います。実習施設の概要を理解したり、実習の心構え、日誌の書き方などを学習します。
■ 介護総合演習III	
■ 介護総合演習IV	
■ 介護実習I	介護福祉士とはどのような現場でどのような役割を担っているのか、多様な実習先で基礎的な介護実習を行います。
■ 介護実習II-1	
■ 介護実習II-2	介護実習Iや他の科目をふまえて、利用者に対して個別の介護計画を作成する総合的な介護実習を行います。
● 人間福祉演習	人間福祉およびそれに関連する領域における学問的テーマを、より専門的に学習していきます。これは4年次の卒業研究と連動させながら指導していきます。
■ 児童・家庭福祉特論	現代社会の児童・家庭福祉の実態と、これを取り巻く社会的情勢、福祉需要(ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援、青少年育成等)と実際を理解していきます。
■ 社会調査の応用	社会調査に関する知識、技法にもとづいて、福祉の現場援助技術としての社会福祉調査の特徴を学び、福祉専門職として求められる調査能力を身につけます。
■ 公的扶助特論	公的扶助論を受け、日本における生活保護法の概要・運用のしくみ・自立支援プログラムの施策等を学びます。
■ 人間福祉特論A(基礎)	福祉専門職を志す学生として、これまで学習してきた講義・演習・実習の意味や内容を総合的に整理・確認し、最新の福祉政策や制度改正の動向についても理解を深めます。また、その学びの集大成として、社会福祉士国家試験の合格をめざします。
■ 人間福祉特論B(展開)	
■ 精神保健福祉論	精神障がい者の人権を擁護し続けてきた精神保健福祉の発達をたどり、こころの健康をめぐる今日的実践課題を探ります。
■ ボランティア・コーディネーション	ボランティア活動の知識と推進するための専門的な技術について理解します。
■ 市民活動論	かくれた福祉ニーズを社会の問題としてとらえるためには、一人ひとりの問題意識と行動が大切です。市民活動から福祉の心を学びます。
■ 国際福祉論	国家・国民社会を前提にした福祉から地球の見地に立った人間福祉を考えるため、先進国の「福祉」と途上国の「開発」の双方について理解を深めます。
■ ケア論	対人援助職におけるケアおよびケアリングの概念とその思想的意義を探究していきます。
■ 福祉住環境論	高齢者や障がい者が地域で生活する場合、その生活拠点としての住の問題は大切です。日本の住宅の抱える問題や住環境整備について学びます。
■ レクリエーション援助法	レクリエーションのなかで行われるさまざまな遊びや活動の楽しさを意図的に活用し人々を支援することを、理論的また実践的に学びます。
■ 介護基礎I(入門)	日常生活の支援技術として、介護技術の基礎を学びます。
■ 介護基礎II(応用)	
■ 福祉機器論	高齢者や障がい者の自立をめざし、生活を豊かにする福祉機器の知識と活用法を学びます。
■ ユニバーサルデザイン論	ユニバーサルデザインを通して、年齢、性別、障がいの有無、国籍、人種などに関わらず、誰もが使いやすい、人に優しい「道具、機器、建物、サービス」のあり方を考えます。
■ リハビリテーション論	リハビリテーションって何だろう。健康障がいのある人が人間らしく生き、潤いのある生活を送るために必要なことを考えてみましょう。
■ 民法入門	個人の衣食住に関わる基本的なルールである民法の基礎的知識を学び、法的思考力を身につけることをめざします。
■ 家族生活論	日本人の家族のあり方がどのように変化しつつあるのか、社会統計や社会調査のデータをもとに客観的に把握し、解釈する力を身につけます。
■ 生活構造論	生活関連の調査データを用いて、現代日本人のライフスタイル、仕事と生活の調和、貧困や格差、環境や保健衛生といった、生活の諸問題を理解します。
■ 家族と労働法	女性の「プライベート生活」と「キャリア生活」に関する法律について学びます。また、キャリア圏では、雇用上の紛争解決制度や、雇用に関する法制度も学習します。
■ 生活と政治行政	政治過程に関する知識を身につけ、行政の基礎的知識と行政がどのような役割を果たしているのか、また、どうあるべきかなどを学習します。
■ 手話	聴覚障がいのある人々の心理や生活を理解し、コミュニケーション方法を学びます。
■ 文章表現(発展)	企業でも有効なコミュニケーションツールとして使われるようになったMind-mapを活用し、自分の考えを言語化あるいは文字化し、論理的な文章を書くことができるようトレーニングします。
■ 言語表現論	社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し、「書く」「考える」「伝える」「理解する」ために必要な基礎スキルを実践的に習得していきます。
■ 健康科学概論	健康に関する総合的な知識を得ることを目的に、生活習慣病予防に役立つ健康的な生活習慣について学びます。
■ 公衆衛生学	公衆衛生の概念について学びます。人口統計、衛生統計などのデータを読み込みながら、各種保障制度についての分析も行います。
■ 乳幼児期の心理学	出生から就学までの乳幼児期と小学校6年間の児童期は、人生の基礎がつけられる貴重な時期です。これらの時期の特徴と重要性を学んでいきます。
■ 障がい者の心理学	障がいをもつ人々の心理的特性を適切に理解することをめざします。
■ 中高年の心理学	成人期以降の、生涯にわたって展開される「発達」に関する理解と認識を深めます。実践力や社会性を重視した知能、社会的能力、精神的健康管理能力の発達などを学びます。
■ 家族心理学	日本社会における家族の機能や特徴を歴史的背景から理解したうえで、家族のなかで発生するトラブルを解決する方策を、家族システム論や家族療法等を通して学びます。
■ 対人社会心理学	個人の認知、感情、行動が他者の存在によってどのような影響を受けるかという社会心理学的な視点から、対人場面における認知と感情に関する研究を学習していきます。
■ グループダイナミクス	グループダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的な法則を明らかにしようとする社会科学の一分野。集団における人間の心理について理解を深めていきます。
■ 特別支援教育概論	「特殊教育」から「特別支援教育」への流れのなかで、特別支援教育の歴史、法制度、特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解を深めていきます。
● 卒業研究	演習において深めたテーマに応じた研究活動を行い、その成果を卒業研究としてまとめます。



生活情報学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性あります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科目	内容
● 民法入門	社会生活とは、他人と関わることでなりたち、それは契約であったり、迷惑行為であったりします。「法的な人との関わり」に最も関係の深い民法を学びます。
● 消費生活と法律	日常の消費生活において消費者が事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済のしくみについて学び、賢い消費者として生きるための教養を身につけます。
● 生活構造論	生活時間調査や家計調査をはじめとする生活関連の調査データを用いて、現代日本人のライフスタイル、仕事と生活の調和、貧困や格差、環境や保健衛生といった、生活の諸問題を理解します。
● 家族生活論	日本人の家族のあり方がどのように変化しつつあるのか、社会統計や社会調査のデータをもとに、客観的に把握し解釈します。政策提言の場でのよう活用されているか学習します。
● 生活環境論	少子高齢化の日本ではこれら物理的環境が大きく変わり、法制度が追いついていません。人間が人間らしく生きていくための物理的環境と自然環境のあり方、それに関連する法律・条例などの制度的環境を中心に学びます。
● グローバリゼーションと生活	身の回りで起こっている「グローバリゼーション」の実態を調べ、それによって、国内社会や国際社会がどのように変化したか、グローバリゼーションの光と影の両面を探ります。
● コミュニティビジネス	福祉・保健・医療から文化・スポーツまで、多面的に展開されている地域のニーズや課題に対応するための事業であるコミュニティビジネスの事例を通じて、その成果と課題を検討します。
● NPO活動と組織	近年、社会的役割が注視されるNPO、NGOについて、その定義、歴史的背景、社会的役割や運営形態ならびに課題を事例等をふまえて学習します。地域社会の抱える課題に対する解決策等について、実際にゲストを招き、聴力と課題について話を聞き意見を交換します。
● 生活経済	現代の少子高齢化社会のなかで、社会保障は生活と経済について考察する上で欠かせない問題である年金、介護、労働など生活に密着した経済問題について学びます。
● 生活と産業	特に生活に深く関係し関わる小売業、製造業、金融業などを取りあげ、その産業の特徴また生活者への影響について、生活者の視点から見た日本経済について学びます。
● 女性と起業	21世紀におけるビジネスのあり方について学び、新しい時代に、ビジネス社会や企業内で女性の可能性について理解し、起業や就職等キャリア形成について考えます。
● 家族と労働法	結婚・離婚・親子・扶養・相続などの知識から、個人の価値観の多様化や医療技術の進歩からくる家族観の変化、雇用上の紛争解決制度など、女性の「プライベート生活」と「キャリア生活」にかかわる法制度について学びます。
● 社会人基礎力	社会人として自らのキャリア・ライフプランをつくりその後の人生を歩むには社会人基礎力を担うため、グループワークや個人ワークを効果的に組み合わせ、働きかける力、計画力、話す力、聴く力、対人協力などの育成、コーチングなどによる自己課題の発見と解決などを行い、社会に関わる力を養成します。
● インターンシップ入門	インターンシップ実習の事前指導です。職業適性や将来設計についての考え方や、受け入れ先である私企業、地方自治体、NGO/NPOについての基本的な知識や、実習の際の基本的な常識などについて指導します。
● インターンシップ実習	実際に企業・自治体・NGOなどにおける学習プログラムにそって実労働60時間以上の研修を行い、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会とのつながり考えられる力を養成します。
● ライフコースと生活設計	女性のライフコースは家族生活と職業生活の兼ね合いによってさまざまなパターンがあり、代代的、時代的に変化しています。家族の一生を捉えることによる生活設計が可能になるかを考察します。
● ワークライフバランス論	日本の働き方ワークライフバランスの視点から見直し、性別役割分担からの男女役割意識の変革、働き方・労働時間の見直しなど企業の推進状況と仕組みと発展をどう考え考察していきます。
● 問題解決手法	ビジネスの現場で活かせる実践的な問題解決手法を身につけることを目的とし、課題認識、調査分析、解決策の立案、実施および結果の評価にいたる、問題解決のプロセスを理解します。
● 人材育成論	職業社会で活躍できる人材育成の諸要素を、具体的にグループ活動やテーマプロジェクトの形で学習し、大学や地域で課題解決につながる人材の育成を考察します。
● キャリアモデルケース研究	SEなどの専門職、一社・長期就業、転職、起業、さらには社会的な活動などさまざまなスタイルで活躍する女性と学生のディスカッションを通して、企業社会や地域での活動の実態を明確にし、自らのキャリアを切り開く力の育成につなげます。
● キャリア開発論	女性の就業期間の長期化に伴い、長期間の「キャリアを形成する」という視点をもつ必要があります。キャリアをデザインするという発想をもてるように、ミドル期やシニア期のキャリアとの関わりにもふれ、学生自身のキャリアプランづくりにつなげて学習していきます。
● 会計学基礎	「会計学基礎」では、簿記入門者が企業会計の意味と内容を理解できるように、会計がどのようなしくみや制度のもとで行われているかについて学びます。
● 簿記入門	簿記の基礎的な原理をいろいろな問題を解くことにより、基礎的な商業簿記原理および記帳、決算等に関する初歩の実務を理解し、「簿記特有の考え方」を習得していきます。
● 簿記基礎	基礎的な商業簿記原理および記帳、決算等に関する初歩の実務を理解します。目標として日商簿記検定3級をねらいます。
● 簿記初級	企業の即戦力としての期待に答えることが授業の目的であり、実務のことも重視した授業内容となります。目標として日商簿記検定2級をねらいます。
● 簿記中級	基礎的な原価計算の原理および記帳、工業簿記に関する決算等に関する流れを理解し、工業経営における原価計算等の基礎的な知識を習得し、目標として日商簿記検定2級をねらいます。
● 簿記上級	日商簿記検定2級の試験内容にそって、より多くの問題を解き、反復練習をすることによって、確実な力をつけます。特に工業簿記の特徴について理解を深め簿記学習の最終的な成果として、日商簿記検定2級を取得します。
● マーケティング論	インターネットの発達した現在は、新たなマーケティング論の理解が重要です。消費者や顧客への価値を提供する技術を学びます。
● ブランド戦略	企業にとって最も重要な仕事のひとつといえる「ブランド」のもつ意義・機能・必要性を明確にすると同時にブランド成立・育成の手法について、多くの具体例をあげて学びます。
● 経営学基礎	企業とはどのようなしくみや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者も理解できるようわかりやすく学びます。
● ビジネス経済学	経済学の基礎を理解することを主眼とし、市場経済の原理を解明し、その原理のもとで、さまざまな政策的課題について学びます。
● ビジネスと法律	ビジネスで不可欠な契約、土地建物の権利関係、法人組織、情報化社会対応の各種法制度、金融と法律、紛争解決等についての基礎知識を、事例や判例を通じて学ぶことにより、就職して社会人としても有用な法的教養を学びます。
● 企業戦略論	経営学の基礎的学習からさらに一歩進め、管理から経営へ、経営から戦略へと続いてきた経営理論の流れをたどることにより現代の戦略経営についてその背景を理解すると同時に、いろいろな戦略論についてその内容と意義を学びます。
● 企業倫理	学生がビジネスの各分野へ進むにあたって、企業に対する評価、企業人あるいは社会人としてのあり方、行動の仕方を理解し、自らのビジネスキャリアの構築について考察していきます。
● マネープランニング	生涯を通じた生活設計の立て方の基礎について、住宅取得資金プラン、老後資金の準備、生命保険・損害保険を活用した保障の設計、相続対策といった、具体的なファイナンシャル・プランニングの基礎を学びます。
● 国際経営論	経営のグローバル化の問題が生じた理由を歴史的に概観するとともに、今後企業社会で生じるさまざまなビジネス活動の問題点を国際経営戦略論の立場から多角的に検討・学習します。
● 株式投資入門	株式や債券などの証券市況や、石油や金などの商品市況、円ドルなどの為替市況を通して海外や国内の経済金融の動きを学習します。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科目	内容
● 情報社会論	情報社会における成立過程、産業と生活、コミュニケーション、情報とメディアなどをテーマとし、情報社会を生きる人間の立場から、実際に迫り、情報倫理、情報犯罪および情報格差など、具体的事例を通して学習していきます。
● 企業と情報	企業情報システムについての概略を学び、また、企業組織において情報がどのように活用されているのを学びます。
● 会計情報システム	経営シミュレーション演習で、実際に企業で使用されているのと同じ環境でSAS社のR/3を実際に操作しERPを学びます。企業における実務の疑似的体験を行い、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解します。
● インターネットビジネス	インターネット上での取引に関する問題を幅広く取りあげ、インターネットのしくみや歴史から、暗号化システムやセキュリティ、認証システム、電子政府などについての特長と問題点についても学びます。
● 調査と統計	社会調査の基礎となる調査の種類、調査項目の内容と構成、調査票作成法、標本の抽出、調査の実施、ならびに統計分析の基礎知識についてコンピュータ演習を交えて学びます。
● 社会調査法I(量的調査)	世論調査、市場調査といった社会調査によって社会現象を量的に把握する技術を学びます。
● 社会調査法II(質的調査)	人間、集団、社会についてより深く理解するために、インタビュー、観察などの技法を用いる調査について学びます。
● マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチとは何か、リサーチプロセスとその課題、リサーチデザインの方法など、マーケティングリサーチに関する基礎知識を学びます。
● パソコン活用	簡単なアニメーションの作成、CD/DVDバックアップソフトの作成、デジタル写真の画像加工、Microsoft Officeの機能や、Windowsのしくみなど各種ソフトウェアの利用を通してその活用を学びます。
● ビジネス文書作成	Wordを用いてビジネス文書の書き方や実践的な高度なWord機能の使い方を総合的なスキルを習得することを目標とします。日商PC検定文書作成2級またはMCAS Wordの資格試験の合格をめざします。
● データ活用	Excelを用いて、入力規則等の便利なデータ入力方法から目的に応じたグラフ作成・編集を学び、実務が必要とされる利用方法を身につけます。日商PC検定データ活用2級、またはMCAS Excelレベルのスキルを到達目標として設定します。
● ビジネスデータ活用基礎	簡易言語を使ったプログラミング、データベースの利用方法、表計算ソフトを使ったデータの収集・蓄積、複数ファイル処理を行います。コンピュータによるデータの収集・加工・蓄積・検索に関する技術を習得していきます。
● ビジネスデータ活用応用	身近な情報あるいはビジネス情報を表計算ソフトと簡易言語を使ったプログラミングを総合的に操作することにより、高度な情報の蓄積、要求される情報の整理、収集の技術を身につけていきます。
● Webページ作成基礎	ホームページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を学び、ページのレイアウトを整えるためのスタイルシート(CSS)についても学び、それを利用したホームページ作成の技術を習得します。
● Webページ作成応用	ホームページスクリプティングを学び、より動的なホームページ作成ができることを目的とし、動的で楽しめるホームページや実用的で使いやすいホームページ作成の技術を習得します。
● 新しいWebページ	インタラクティブでスムーズな画面表示を可能にするAjaxなどの新しいJavaScript機能を使って、高度なWebページの作成の仕方を習得することをねらいます。
● アニメーション入門	アニメーションを作成していくために、アニメーションソフトの使用方法から始め、基本的なオブジェクトの作成、アニメーションの設定手順など初歩的なプログラムなどを学びます。
● アニメーション制作	アニメーションの作成と表現技法を中心に、画像素材の作成・加工と必要に応じて複数のアプリケーションを使います。各自のアイデアをアニメーションとして実現していく過程を学びます。
● デジタルビデオ編集	一般的に普及してきているデジタルビデオカメラのビデオ画像のキャプチャ、タイトル付加、合成などコンピュータ上での編集の基本的な操作と流れを学びます。また、課題を通して、目的に応じた編集方法や出力方法などについても学びます。
● コンピュータミュージック	ゲームやマルチメディアコンテンツの作成では画像とともにサウンドデータも重要な要素となっています。コンピュータを使ったサウンドデータの作成・加工・編集の知識と技術を学んでいきます。
● デジタル色彩	デジタル画像における色彩に関する基礎知識を学ぶとともに、コンピュータでのデジタル画像作成・利用・活用方法について学びます。
● コンピュータグラフィックス	デジタル画像の作成と加工、編集など、画像の作画・修正、加工などの2次元画像の作成・修正方法について学びます。
● 3次元CG	3次元CGの作成、加工、編集等の基本的な技術を学びながら、これまで学んだ平面的な表現方法に加えて、物を立体的にとらえる能力を身につけます。
● 住居デザイン	コンピュータを用いた景観、住宅、インテリア、照明などのデザインシミュレーションの基本的な作業の流れを学び、3Dモデルを作成し、さまざまな方向からシミュレーション結果を考察していきます。
● データベース入門	データベースの構築に必要なデータの整理法などの理論や方法、データベースの意義について学びます。
● データベース基礎	ネットワーク環境を利用したデータベース・障害とバックアップなど現代の複雑化した環境で生活するうえで必要なデータベース管理システムシステムについてその理論と技術を学びます。
● ネットワーク基礎	コンピュータネットワークの基本的技術とそれぞれの技術がネットワークにおいて果たす役割を理解します。
● インターネットとセキュリティ	インターネットのしくみ、およびインターネットを安全に使うための暗号化技術、アクセス制限技術、認証技術などを学びます。
● ネットワーク設定	コンピュータをネットワークに接続する際に必要となる知識と技術を学びます。
● サーバ設定	Webサーバーとファイルサーバーの構築方法と各種の設定方法・設定技術についてオペレーティングシステムであるUNIXについて学びます。
● ソフトウェア基礎	コンピュータを理解するうえで重要なコンピュータの基本であるオペレーティングシステム(OS)の機能から、一般的なアプリケーションソフトの分類などを学びます。
● ハードウェア基礎	コンピュータシステムを構成するさまざまなハードウェアの要素を中心に解説し、今後のコンピュータ学習の基礎力を学びます。また、自分の手でコンピュータを組み立てる実習体験を行います。
● 情報数学	コンピュータを効率的に活用するためには、しくみを理解することが重要であるため、その基礎となる情報科学で必要とされる数学の基礎を学び、ITの実践的な応用力を身につけます。
● システム設計入門	コンピュータシステムを設計・開発・運用するにはどのようにすればよいかについて、基礎的な知識を学びます。
● システム設計基礎	代表的なフローチャートなど各種技法により演習課題を解きながら、システム開発をどのように行うかを学び、システム設計でできる力を身につけます。
● プログラミング入門	プログラム等をまったく作成したことのない学生を対象に、Javaを使いプログラムにおける基本構文を学ぶとともに、基本的なプログラム作成能力を身につけます。
● プログラミング初級	プログラミング入門で学んだJava言語の基本をベースに学び、目的に応じたプログラムを作成する実践的な力を身につけます。また、Java言語の特徴のひとつである「オブジェクト指向」の概念やそのメリットを学びます。
● プログラミング中級	プログラミング言語Javaの中核機能であるオブジェクト指向について、演習問題を解きながら学び活用できる力をつけていきます。
● プログラミング上級	プログラミング入門から中級で身につけてきたスキルをベースに、今まで学んだ知識について総合的に必要とする規模の大きなプログラムの作成を課し、実践的なプログラミングの力を身につけます。
● ゲームプログラミング	コンピュータゲームを作成する上で基本的な知識が必要となり、今まで学んだコンピュータに関する知識の復習を行いながら、一般的なライブラリを使って、基本的なコンピュータゲームを作成します。
● Webアプリケーション	Webブラウザからインターネットを通じてサーバ側で動作するJavaプログラムなどのWebアプリケーションのしくみ、作成方法について、演習問題を解きながら学びます。
● 生活情報総合講義	生活情報学科所属の各教員が自己の専門分野とゼミの内容について1コマずつ交代で講義していきます。ゼミ選択のための情報を提供することを目的とします。
● プレゼナール	専門的な演習や研究を進める上で前提となる基本的な概念や問題の理解、理論や知識の習得、具体的な技術を身につけるため、文献の購読と発表や討議、データの収集や分析を通じた手法の習得を行います。
● 演習I	「A：仕事と家庭、地域生活から国際社会まで、生活者に必要な教養を身につける」「B：キャリア形成を個人、企業社会の側面から考える」「C：ビジネスの基礎、ビジネス社会を生かすための具体的な技術を身につける」「D：調査・データ解析を活用し、経営・マーケティング分野における実践力を養う」「E：情報システムを創る」の5つの課題において、テーマを選択し少人数のゼミ形式で学ぶ、卒業研究の成果とします。
● 演習II	
● 卒業研究	興味のあるテーマを選択し、まとめ、発表します。

メディアコミュニケーション学科 科目一覧 [2011年度] ※下記は平成23年度開講予定の科目であり、変更の可能性あります。

● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科目	内容
● メディア社会論	メディアの発達が社会のありようをどのように変革してきたかを学習し、来るべきメディアと社会の姿を予測できる知識・教養を身につけていきます。
● 言語表現論	社会で求められるコミュニケーション能力とは何かを理解し、「書く」「考える」「伝える」「理解する」ために必要な基礎スキルを実践的に習得します。
● ニュースと社会	多量のニュースの報道による情報の洪水のなかから、現代社会に必要な情報の取捨選択を行い得るメディア・リテラシーを身につけていきます。
● プレゼンテーション技法	デジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と、自分のメディア発信力を高めることを目的とし、各自のプレゼンテーション制作を通して学んでいきます。
● 脳とコミュニケーション	人と人のコミュニケーションのすべての基礎が脳にある、という理論から脳の機能と役割を知ること、社会の現象の背景を理解することを目的とし、脳とコミュニケーションの関係を解説します。
● 文章表現(基礎)	考えることは書くこと、書くことは考える力を養うという視点に立ち、文章表現の基礎的な技法を習得し、日常にある携帯メールや大学のレポート、就職活動のエントリーシート、社会人に必要とされる文章表現技法を、実践を通して身につけます。
● 文章表現(応用)	文章表現(基礎)で学んだことを基礎とし、手紙の書き方や就職活動に直結する自己PR等の文章の指導・添削等を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、文章表現力を高めていきます。
● ディベート	教育ディベートの手法を用い、問題発見能力や、問題解決能力、情報収集能力、プレゼンテーション能力の育成をはかり、メディアリテラシーや議論の技法と態度を実践的に学びます。
● 情報倫理	情報社会のなかで真に必要とする情報の選択と正確な発信を行うルールと知恵を、個人情報とプライバシーの侵害、情報源の秘匿や編集権などの諸課題について考え、法律知識も解説し学びます。
■ メディア文化論	メディア文化を理解し、メディアが社会においてどのような文化的基盤として機能しているのかを考え、学生の関心のあるトピックを選びその内容について討論し考察を深めています。
■ 放送概論	真実を伝え、問題提起を行う役割を担わなければならないジャーナリズムとしてのテレビがもつ影響力や課題について考え、テレビからの情報をよりよく社会生活で利用できる能力を学びます。
■ 環境と社会	人間の活動と環境について、環境学の視点から、具体的な事例を取りあげ学びます。また、公的な環境保護政策や民間の保護活動のあり方についても解説します。
■ アジア入門	台頭著しい中国、不透明で混沌を続ける北朝鮮、開発激進から地域経済共同体へと脱皮を図るASEANを中心に、これらの日本(人)とアジア諸国(民)との関係のあり方を考えます。
■ エンターテインメントメディア論	世界中で視聴されているハリウッド映画を視聴し、そのおもしろさの根源について、グループワークを中心に分析し、映像表現技術の検討を通して、エンターテインメント性とは何かについて考察を深めます。
■ マンガ・アニメ論	日本の代表的なポピュラー文化として発展したマンガやアニメーションの歴史を探りながら、私たちの社会や文化、日常生活のなかでマンガやアニメが果たしてきた役割を考察します。
■ インターネット社会論	インターネットの概要としくみについて学び、インターネット利用と活用方法、社会におけるインターネットの役割について理解し、対応できる力を身につけます。
■ メディア産業論	メディア業界の概観と展望について、ユニクロや宝島など活路を開く特徴のある企業とその戦略についても解説しながら、メディア産業の全体像やしくみを理解します。
■ 国際マスコミュニケーション論	日本のアニメやマンガが世界中で消費されていることなど国際マスコミュニケーションの概観を理解し、国家および一国の社会・文化に及ぼすような影響を与えているのかを学んでいきます。
■ コミュニケーションの心理学	人間の行動や対人関係の基礎をなすコミュニケーションについて、日常場面での具体的な事例を取りあげ、心理学的な視点からコミュニケーション行動の理解を深めます。
■ 教育とメディア	eラーニング教材の作成を通して、その特徴や教材開発の理論について学習し、学校教育や生涯学習でのeラーニングに代表されるメディアを活用した教育方法について解説していきます。
■ 政治とメディア	人々が政治に関する情報入手する方法はいろいろあります。それらめぐるコミュニケーションの現状を考察します。情報のグローバル化が政治をめぐるコミュニケーションにおよぼす影響についても論じます。
■ 地域メディア論	地方経済のいっそうの厳しさのなかで、中央に対し「地方の存在意義」を掲げる地域メディアの理念と現実を、地方紙の意味などを分析して埼玉県等のメディア展開も例にして学びます。
■ 生活と政治行政	現在の議会はどのような形で政策決定を行っているのかを見ていきます。具体的事例や日本の国会などを題材に政治について考えていきます。
■ 国際関係論	20世紀後半の国際関係の流れを再考し、そのうえで、現在の国際社会の問題の特徴を探ることを目的とし、自分から遠いところでも、自分に関係なく動いているものではないことを認識し、その関係性を理解します。
■ 映像文化論	映像表現とジェンダーをテーマに絵画や写真や映画などの視覚文化(ヴィジュアル・カルチャー)について考え、さまざまな映像資料を参照しながら検討していきます。
■ 雑誌文化論	衰退しつつある雑誌文化が、電子メディアに対抗、共存するためにどのような手法を用いているのか、という観点から、現代社会における雑誌文化の可能性を探っていきます。
■ インターネットビジネス	インターネット上での取引に関する問題を幅広く取りあげ、インターネットのしくみや歴史、インフラ系の事業からポータルサイト、インターネット上のショップ等について学びます。
■ ブランド戦略	「ブランド」のもつ意義・機能・必要性を明確にすると同時にブランド成立・育成の手法についても解説を加えます。社会に出て実践で応用できるよう、多くの具体例をあげて学んでいきます。
■ 広告デザイン	広告の発想とその戦略的なアプローチで、リアルタイムな広告デザインの発想とデザインの実践を試み、形にしておくことを目的とします。デザインには遊び感覚や豊かな生活感覚、ユーモアなどを提供する普遍的なチカラがあることを解説します。
■ 雑誌・ミニコミ編集	タブロイド版のミニコミ紙づくり等(取材や執筆)を通して、スキルを超えたミニコミの意義も体得することを目的とし、より実務的に学んでいきます。
■ DTP基礎	DTPソフトを使って、編集に慣れていなくても、コンピュータでのマガジン制作やその編集基礎技能を体験することを目的とし、実際の出版物を作成します。
■ DTP応用	「DTP基礎」のステップアップとして、DTPや組版の応用技術を習得することを目的とし、より応用的な出版物編集作業や編集に関する応用理論についてもあわせて解説します。
■ Webデザイン基礎	さまざまな情報をインターネット上に掲載し、配信することを前提に、ウェブサイト(ホームページ)のデザインを行います。作成に必要な知識を身につけるとともに、実際にウェブページを作成し、簡単な言語を理解できるようにします。
■ Webデザイン応用	Webデザイン基礎の内容を受け、比較的大規模なウェブサイトの構築ができることを目的とし、HTML言語の構造化を理解し、ユーザが目的とする情報に、確実かつ容易に到達できるよう配慮したサイトをデザインします。
■ 映像編集	ビデオカメラでの撮影技法と実践、その素材を利用した映像編集に関する技術を習得し、発表などの機会を設け、作成した作品の評価も行います。
■ ラジオ番組制作	教室を「仕事場」と考えて、できる限り放送局で行われている方法に近い形で授業を進め、「ラジオ番組制作」の理論と実践を学び、番組制作に関わる事柄を習得します。



● 必修科目 ■ 選択必修科目および選択科目

科目	内容
■ ことばのしくみ	日本語と英語を取りあがらなげ、言語学の周辺諸分野に関する基本的な概念や考え方を学び、コミュニケーションの重要な手段である「ことば」のしくみを解明するための方法について理解を深めます。
■ ことばと文化	母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきます。
■ 異文化理解	歴史、言語、風習、習慣、価値観などをテーマに、文化が生まれてきた必然性や影響を理解し、留学などに対する準備や必要な知識についても体験します。
■ 異文化コミュニケーション	異なる文化的背景をもった人と出会った時、うまくコミュニケーションがとれないと感じる時がある。その原因についても、手段(言語、非言語)や考え方(文化)の差異などの視点から考察します。
■ サブカルチャー論	音楽や、ファッション、ライトノベルやウェブ小説、携帯電話やSNSなどさまざまなサブカルチャー領域について、具体的な現象を調査・観察することにより、現代社会における文化的機能と役割、意義などを探っていきます。
■ 音声表現論	話しことばによるコミュニケーションの基本と応用を、理論の学習と実践の演習を通して学び、理解力と表現力、構成員の向上を図ります。
■ ことばと社会	ことばと社会との関わりについて考えながら、さまざまな問題発見を実践的に身につけていくことを目的とし、考えるプロセスの訓練も行います。
■ 情報とデザイン	情報とデザインの関係について、ヒューマンインタフェースやユニバーサルデザインの面からコンピュータと人間の相互作用について考察します。
■ 舞台表現A(日本)	現在上演されているさまざまな演劇(能狂言から文楽、歌舞伎、小劇場演劇、翻訳劇、ミュージカルなど)のなかからいくつかの作品を選んで、演劇の楽しさ、魅力を味わうことをねらいとします。
■ 舞台表現B(欧米)	古代ギリシャから現代までの西洋演劇の流れを通して、演劇がどのように時代や社会を映し出し、人々からどのような影響を与えてきたのかを検討し、時代の社会背景から欧米の文化を探ります。
■ 文化と文学A(日本文学)	仏教的な要素を含めた日本の文学作品を読み解きながら、仏教の基礎知識を身につけるとともに、日本の古典文学の魅力に迫り、文学の立場から日本人の精神性や理想性に考えをめぐらしていきます。
■ 文化と文学B(英米文学の流れ)	英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説していきます。
■ 文化と文学C(英米小説と女性)	近代小説が誕生したあとの英米の小説を取りあげ、描かれた女性像から見る女性のあり方を時代背景との関わりをながめながら、今日的な意味をもっているのかを検討していきます。
■ 文化と文学D(児童文学)	各国の近代の児童文学が、子どもに教訓を与えることを目的としたものなのか、それとも純粋に想像力のつくり出した文学世界なのかを視野に入れた個別の作品にあり、特徴を探りながら、作品を生み出した時代思潮や社会のあり方を検討していきます。
■ 身体・スポーツと文化	「身体」「スポーツ」「健康」「文化」などをキーワードにして、さまざまな情報に感化されず、自ら考える力を得ることを目的とします。
■ 文章表現(発展)	文章表現(基礎)の既修者を対象に、文章表現(応用)で学んだことをもとに、個々の目的に応じた文章を書くための総合的な力を養成するために、ワークシートなどを活用しながら実践的に習得していきます。
■ 人間関係の心理学	対人魅力を中心とした人間関係に関する社会心理学的研究にもとづいて、人間関係の形成、進展について理解することを目標とし、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えます。
■ グループダイナミクス	グループダイナミクスに関するさまざまな領域の研究知識について概観し、集団における人間の心理について理解を深めるとともに、実際の集団や組織への応用や可能性も考えていきます。
■ 創作表現	小説やエッセイなどの創作を通して、どのような表現・創作が他者に感銘を与えることができるのかを探求することを目的とします。
■ コンピュータグラフィックス	グラフィックソフトの操作や、機能を学習し、作品をつくり、生活を豊かにするようスキルを身につけます。そしてCGを使うことで、効果的にコミュニケーションできることを体験します。
■ コンピュータミュージック	マルチメディア情報を取り扱う場合、音楽は重要なメディアのひとつです。音楽分野においてコンピュータは、分析、作曲、編曲、演奏などに利用されています。コンピュータ・タンセイヤによる音楽システムを学びます。
■ アニメーション制作	アニメーション制作ソフトのAdobe Flashを使って、アニメーション制作を学習します。作品をつくり、将来にわたって興味や広がるように、現在のウェブサイトにもあるインタラクティブで広がりのある世界の実現について体験します。
■ ナレーションA(日本語)	一人ひとりの声を通してさまざまな作品をじっくり味わう実践講座として位置づけ、ナレーションの体験をします。
■ ナレーションB(英語)	間違えやすい個々の音の発音を矯正したあと、英語のリズムの特徴を日本語のリズムと対比して解明したり、イントネーションの構造も理解しながら文脈にふさわしいアクセントをつけられるよう力を養います。
■ 手話	聴覚に障がいをもった人たちのことばである「手話」について、手話以外のコミュニケーション手段も同時に体験し、人と人がコミュニケーションすること全体について考察します。
■ ダンスパフォーマンス	エアロビクス、ヒップホップ等、基本のエクササイズからからだの各部位の動きや方を学び、リズムにのる楽しさを身につけます。
■ 英語学	英語学の語の構造や、文の構造、意味の構造を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学びます。また、日本語と比較することにより英語という言語のもつ特徴を浮き彫りにできるようにします。
■ 英語音声学	英語の音楽表記に使われる記号をマスターし、音の分類に使われる諸特徴を理解します。日本語との違いに注目し、日本人学習者に区別が難しい音の違いを客観的に理解し学びます。
■ 日常英会話入門	日常生活の場面を通して、聞く・話す力を身につけることを学びます。
■ 日常英会話	流暢さを増せると、仕事・教育・人的交流の場面で成功する確率が高められるので、英語を話す・聞く力のレベルを向上させて、流暢に話せるようにします。
■ メディア英語	テレビ、新聞、ラジオ、映画などのマスメディアや電子メール、ブログなどで用いられる英語にふれ、受容と発信が円滑に行われるノウハウを学び、コミュニケーションの基礎的な能力が養われることをめざします。
■ ライティング	日常的な話題を扱った短い英文のモデルエッセイを読み、そこで使われた構文や表現を真似て、自分のいいことを読み手やわかりやすい平易な英語で表現し、自己流ではない自然な英文が書けるようになります。
■ ビジネス英語	英語によりビジネス文書の特徴に慣れ、素早く要点をつかみ、正式な文書や電子メールを書けるようになります。また、ビジネス場面の会話や電話対応など、英語力のアップを図り実務に役立つ英語の修得をめざします。
■ アドバンス・リスニング	英語の自然な発話スピードや、発話に伴う音変化など、より高度な英語のリスニングを学びます。また、発話内容に対して十分な理解もできるように練習していきます。
■ アドバンス・リーディング	エッセイ、フィクション、時事英語などさまざまな分野から全文の内容や要点を素早くおさえ細部より大意をつかむ速読で、読解力をつけることをめざします。
■ 英語資格試験準備講座	TOEIC®英検受験対策のため、それぞれの試験形式にそって、問題等にとり組みながら、試験の問題形式に慣れ、出題内容に対応できるだけの英語の4技能の能力増強を図ります。
■ インターンシップ入門	大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会において能力を発揮することを目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成します。インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導します。
■ インターンシップ実習	「インターンシップ入門」を履修し、企業・自治体・NGOなどにおけるインターンシップの学習プログラムにそって研修を行います。
■ 社会人基礎力	大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、就職活動や社会人として必要とされる一般教養、ビジネスコミュニケーション、マナーなどの基礎力の向上をめざした授業を行います。
● 演習I	開設する専門分野は、国際ナショナルメディア、マスメディア(コミュニティメディア)、エンターテインメントメディア、パーソナルメディア、クリエイティブメディア等です。
● 演習II	4年次の卒業研究の前編となる演習を行います。開設する専門分野は、国際ナショナルメディア、マスメディア(コミュニティメディア)、エンターテインメントメディア、パーソナルメディア、クリエイティブメディア等です。
● 卒業研究	原則として演習教員の指導のもとにテーマを選び、研究を行い、研究の成果を論文にまとめあげます。